

総務財政委員会記録(No.18)

1 日 時 令和5年12月8日(金)
午前10時00分 開会
午後 0時05分 休憩
午後 1時00分 再開
午後 3時32分 閉会

2 場 所 第6委員会室

3 出席委員(10人)

委員 長	佐藤 栄作	副委員 長	三宅 まゆみ
委員	村上 幸一	委員	戸町 武弘
委員	成重 正丈	委員	岡本 義之
委員	大石 正信	委員	篠原 研治
委員	井上 純子	委員	村上 さとこ

4 欠席委員(0人)

5 出席説明員

企画調整局長	柏井 宏之	総務調整部長	春日 伸一
企画政策部長	森川 洋一	企画課長	一徳 仁
企画担当課長	大西 理恵	総務局長	田中 規雄
財政局長	上田 紘嗣		外関係職員

6 事務局職員

委員会担当係長	松永 知子	委員会担当係長	梅崎 千里
政策係長	袴着 健太郎		

7 付議事件及び会議結果

番号	付 議 事 件	会 議 結 果
1	第175号 北九州市職員の給与に関する条例等の一部改正について	可決すべきものと決定した。
2	第184号 当せん金付証票の発売について	
3	第232号 令和5年度北九州市一般会計補正予算（第4号）のうち所管分	
4	請願第4号外28件について	別添請願・陳情一覧表の請願3件及び陳情26件について、閉会中継続審査の申出を行うことを決定した。
5	大都市財政の実態に即応する財源の拡充について	調査結果について別添報告書（案）のとおり取りまとめることを決定した。
6	行財政改革のさらなる推進について外1件	別添所管事務調査一覧表の事件について、閉会中継続調査の申出を行うことを決定した。
7	行政視察について	1月17日から19日までの3日間で行政視察を行うことを決定した。
8	人口増加対策について	企画調整局から別添資料のとおり説明を受けた。

8 会議の経過

○委員長（佐藤栄作君） それでは、開会します。

本日は、議案の採決、請願・陳情の審査及び所管事務の調査を行います。

初めに、議案第175号、184号及び232号のうち所管分の以上3件を一括して議題とします。

これより採決を行います。

まず、議案第184号について採決します。

本件については、可決すべきものと決定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり。）

御異議なしと認めます。よって、本件については可決すべきものと決定しました。

次に、議案第175号及び232号のうち所管分の以上2件について、一括して採決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり。)

御異議なしと認め、一括して採決します。

議案2件については、いずれも可決すべきものと決定することに賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

賛成多数であります。よって、議案2件についてはいずれも可決すべきものと決定しました。

以上で議案の審査を終わります。

なお、委員長報告については、正副委員長に一任願います。

次に、請願・陳情の審査を行います。

お手元配付の一覧表記載の請願3件、陳情26件については、いずれも閉会中継続審査の申出を行うことに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり。)

御異議なしと認め、そのように決定しました。

以上で請願・陳情の審査を終わります。

次に、所管事務の調査を行います。

まず、大都市財政の実態に即応する財源の拡充についてを議題とします。

本日は、本事件について取りまとめを行います。

正副委員長において作成した報告書案をお手元に配付しております。

この報告書案について御意見はありませんか。

(意見なし)

御意見なしでよろしいですね。

それでは、本案をもって本事件についての報告書としたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり。)

御異議なしと認め、そのように決定しました。

次に、お手元配付の一覧表記載の事件については、次の定例会までの間、引き続き調査を行うこととし、閉会中継続調査の申出を行いたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり。)

御異議なしと認め、そのように決定しました。

次に、行政視察についてお諮りします。

本委員会の行政視察について、正副委員長案を作成しましたので、お手元配付の資料を御覧ください。

行政視察は、令和6年1月17日から1月19日までの3日間の日程で、静岡県裾野市の窓口DXの取組について、横浜市の公民連携の取組について、奈良県奈良市の移住・起業プロジェクトの取組について、それぞれ視察を行いたいと思いますが、この案について質問、意見はありませんか。

(質問、意見なし)

それでは、本案のとおり決定したいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり。)

御異議なしと認め、そのように決定しました。

なお、議員派遣要求書を議長宛てに提出しますので、御了承願います。

ここで、次の議題、人口増加対策についてに関係する職員を除き、退室願います。

(執行部入退室)

次に、人口増加対策についてを議題とします。

本日は、新たなビジョンの素案について、市外転出者へのアンケート調査の結果報告について速報版及び第4回北九州市新ビジョン検討会議の開催結果について、報告を兼ね、当局の説明を受けます。企画課長。

○企画課長 それでは、人口増加対策について御報告をさせていただきます。

ファイル名06-2、所管事務、人口増加対策、基本構想素案を御覧ください。

後ほど、基本計画の説明の際に御説明させていただきますけども、新たなビジョンにつきましては、目指す都市像とその実現に向けた3つの重点戦略の考え方を記載した部分となります基本構想、また、3つの重点戦略に基づき取り組むべき主要政策の体系や方向性を記載した部分となります基本計画という体系としております。

それでは、御説明させていただきます。

タブレットの2ページ目を御覧ください。

新たなビジョンにおける目指す都市像を記載しております。

新たなビジョンにおいて共有すべき目指す都市像につきましては、目次の前に掲載をしまして、本論に入る前にまず御覧いただくような立てつけにしております。目指す都市像としては、これまでの様々な御意見を踏まえまして、つながりと情熱と技術で一步先の価値観を実現するグローバル挑戦都市・北九州市を掲げております。

少子・高齢化、人口減少が進む社会においても、北九州市や北九州市民の多様性を受け入れる人と人とのつながり、公害など様々な困難を乗り越えてきた情熱、ものづくりや環境分野の技術など、北九州市の特色や強みを最大限に今後も発揮していきながら、課題を克服し、その先にあります一步先の価値観を市民の皆さんと一緒に体現できる町を実現していくことに挑戦し、その姿を日本全体、さらにアジアを中心とした世界に示していくというコンセプト、考え方としてまとめております。

目指す都市像の下に、この都市像を説明する内容を記載しております。我々はこの部分をステートメントと呼んでおりますけども、ここは後ほど説明します3つの重点戦略をイメージした記載となっております、クリエイティブディレクターの下川氏の専門的な助言もいただきながら作成しております。

それでは、目次の次のページとなります、タブレット4ページ、第1章、北九州市の挑戦を御覧ください。

まず、1、北九州市の歩みと個性ということで、5市合併前からの官営八幡製鐵所の稼働から、重化学工業を中心とした産業発展、公害の克服、暴力追放運動など、これまでの北九州市の歩みと、そこに背景としてある北九州市の個性を説明しております。

タブレットでは6ページから7ページ目になりますけども、北九州市が考える一步先の価値観ということで、少子・高齢化、人口減少という、北九州市、さらに日本全体やアジアを取り巻く大きな社会課題を北九州市として克服する挑戦の過程におきまして、未来に向けて確固たる歩みを進めるためのよりどころとなります一步先の価値観、具体的には、このビジョンで北九州市が考える価値観としまして、1つ目が、市民一人一人や企業が自身の持っている力を最大限に発揮する能力開花、2つ目が、市民が相互に包摂性を持ち、それぞれが望む生活や夢の実現に向けて支え合う利他の精神、3つ目が、地域が直面する課題を地域の力で解決し、活力を取り戻した豊かな町を次の世代に引き継ぐ持続可能と説明させていただきます。

次に、タブレットでは8ページ目の第2章、目指す都市像の実現に向けた3つの重点戦略を御覧ください。

1、3つの重点戦略による成長と幸福の好循環では、重点戦略の1つ目であります稼げる町の実現、2つ目の彩りある町の実現。この戦略につきましては、これまではハイクオリティな都市づくりと説明してきた方向性ですけども、表現を整理したものとなっております。それと、3つ目の安らぐ町の実現。この戦略も、これまでは市民の安全・安心な暮らしの確保として説明してきた方向性について、表現を整理したものとなっております。この3つの重点戦略を連携させることで、成長と幸福の好循環を生み、その姿を日本全体やアジアに示していくことで、さらに国内外から人や企業を呼び込むとともに、北九州市民のシビックプライドの向上にもつなげていくことを記述しております。

タブレットでは10ページ目からの2、3つの重点戦略では、この3つの重点戦略、稼げる町、彩りある町、安らぐ町についての説明をそれぞれストーリー立てて記述しております。

それでは、基本計画の説明に入らせていただきます。

ファイル名06-3、所管事務、人口増加対策、基本計画素案を御覧ください。

タブレットでは3ページ目となりますけども、基本計画の策定に当たっての考え方を記

載しております。

まず、1、計画の構成です。冒頭に少し触れましたが、目指す都市像とその実現に向けた3つの重点戦略の考え方を記載した部分が基本構想、3つの重点戦略に基づく、取り組むべき主要政策の体系や方向性を記載した部分が基本計画としております。そして、基本計画に掲げる主要政策につきましては、仮称北九州市産業振興未来戦略をはじめとする各分野別計画などに基づき、毎年度の予算編成において、施策や事業として具体化して実施していくという整理を記載しております。

次の2、計画の期間についてです。基本構想につきましては、元気発進！北九州プランと同じく年限は設けませんけども、基本計画につきましては、目標年次を2040年、令和22年としております。

また、その下の3、計画の見直しでも書いておりますけども、社会経済情勢や市民ニーズの変化、計画で掲げた主要政策の達成状況などに応じて、おおむね5年ごとに内容を検証し、適宜計画の見直しを行う考えとしております。

それでは、タブレットの4ページを御覧ください。

4、計画の推進体制です。

目指す都市像の実現に当たっては、当然、行政の取組だけでは不可能でありますので、産学官民などがそれぞれの役割の下、さらに強固に連携しながら取り組んでいくことが不可欠となってまいります。そのため、各主体の役割のイメージ図を記載しております。

イメージ図の下の5、計画と地方版総合戦略の関係を御覧ください。

令和6年度までの計画期間である第2期北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略の下、現在、地方創生の取組が実施されているところでありますけども、今後の地方創生の取組の方向性は今回の基本計画に掲げる方向性と合致していることから、まち・ひと・しごと創生総合戦略を基本計画に包含して、一体的に取り組むこととしております。

ここの記載部分で1点修正がございましたので、御報告させていただきます。国のまち・ひと・しごと創生法の制定年を平成27年と記載しておりますけども、平成26年の誤りでございました。申し訳ありませんでした。なお、市ホームページにアップしております素案のデータにつきましては、修正したものを既に掲載しているところでございます。

次に、タブレットの5ページを御覧ください。

6、市政変革による基盤づくりです。

令和5年度中に策定予定の北九州市政変革推進プランに基づき、経済社会構造の変化に柔軟で機動的に対応し、各局室が自主的、自律的な経営判断と事業実施を行うことができる市役所の体制づくりを行っていく取組を着実に進めまして、基本構想で示す目指す都市像の実現に向けた基盤づくりを行っていくことを記載しております。

次に、タブレットでは6ページから8ページ目に記載しておりますが、第2章としまし

て、重点戦略の1番目にあります稼げる町の実現における主要政策を掲載しております。

稼げる町の実現に向けては、産学官の連携により、陸海空のネットワークの構築や近隣市町との連携などの稼げる基盤を強めていくとともに、若者や女性をはじめとした多様な人材の就業や起業を後押しする、稼げる人の育成を進めていきます。また、若者に魅力ある企業の誘致に加えまして、民間主導による企業の魅力や生産性の向上、新規分野のビジネス展開など、稼げる産業を創出していきます。

具体的な主要政策としまして、1の稼げる基盤をつくるでは、陸海空のネットワークの構築、メガリージョンの推進、新たな産業用地などの創出の3つの主要政策を掲げております。

2の稼げる人を育むでは、スタートアップの創出・成長、若者のチャレンジへの支援、性別にかかわらずキャリア形成の支援、多様な人材が働くことができる環境の整備の4つの主要政策を掲げております。

3の稼げる産業をつくるでは、バックアップ首都構想の推進、成長の芽となる未来産業の振興、仮称北九州グリーンインパクトの推進、物流拠点構想の推進、生産性向上・高付加価値の推進、アジアの社会課題解決への貢献と国際ビジネスの推進の6つの主要政策を掲げております。

次に、タブレットでは9ページから10ページに記載しております第3章としまして、重点戦略の2番目にあります彩りある町の実現における主要政策を掲載しております。

彩りある町の実現に当たっては、民間投資を喚起しながら、魅力的な町並みや生活環境などの彩りある空間の整備を進めるとともに、心身に潤いや活力を与える文化芸術・スポーツの振興、観光地の魅力向上などにより、市内外の人々が彩りある時を体感できる環境を整備していきます。また、多様で質の高い教育環境の充実により、子供たちの個性を尊重し、将来の可能性を引き出して、彩りある人を育てていきます。

具体的な主要政策としまして、1の彩りある空間をつくるでは、都市の魅力をも高める町並みづくり、選ばれる住まい環境づくり、デジタルによる快適・便利・迅速な環境づくり、人や企業を呼び込む都市の魅力の発信の4つの主要政策を掲げております。

2の彩りある時をつくるでは、文化芸術やスポーツの振興、エンターテインメントによるにぎわいづくり、観光資源の磨き上げや発信の推進の3つの主要政策を掲げております。

3の彩りある人を育むでは、グローバル人材や理工系人材の育成に向けた教育の推進、魅力ある新時代の教育機関の誘致、将来の可能性を開く教育環境の充実の3つの主要政策を掲げております。

次に、タブレットでは11ページから12ページに記載しておりますけども、第4章として、重点戦略の3番目にあります安らぐ町の実現における主要政策を掲載しております。

安らぐ町の実現に当たりましては、防災や防犯のまちづくり、社会インフラの維持など、

生活基盤の安心を支えることをベースとし、質の高い福祉や介護、医療などのサービスが提供されるとともに、多様性を認め合いながら、地域のつながりを感じることができる暮らしの安心を支えていきます。また、希望する人が安心して出産し、育児や子供の成長を社会全体で支える、子供や子育ての安心を感じることができる環境を整備していきます。

具体的な主要政策とし、1の生活基盤の安心を支えるでは、災害などに強いまちづくりの推進、犯罪のないまちづくりの推進、社会環境やニーズに即した都市基盤・施設の維持の3つの主要政策を掲げております。

2の暮らしの安心を支えるでは、多様性を認め合う文化のまちづくり、誰もが安心して暮らせる環境づくり、地域医療提供体制や保健衛生管理体制の充実、地域におけるコミュニティ活動などの活性化、生涯現役に向けた活動などの活性化の5つの主要政策を掲げております。

3の子ども・子育ての安心を支えるでは、安心して産み育てることのできる環境の整備、子供の健やかな成長への支援の2つの主要政策を掲げております。

次に、タブレットでは13ページ目の第5章の人口増に向けた道筋を御覧ください。

人口減少を食い止め、増加への転換に向けましては、産学官民が一体となりまして、産業競争力の向上、ハード、ソフト両面の生活環境の充実など、都市の総合力を高めていくことが不可欠となっております。地方におきましては、経済活動などの拠点となる主要な都市では、日本全体で人口が減少する中でも人や企業が集まっている状況となっております。そのため、まずは市内総生産や雇用者報酬の増加などの経済成長の実現、また、都市のイメージアップに取り組み、20代や30代の若い世代を定着させていくことが重要となってきます。さらに、子育て、教育、福祉、文化、スポーツ、住宅、交通などの生活環境の向上にも取り組みまして、中長期的な視点にはなりますけれども、出生数の増加による自然動態の改善にもつなげていくことも重要となってきます。

こうした考えの下、基本構想に掲げる3つの重点戦略を着実かつ総合的に取り組んでいきながら、主要な成果指標で掲げた各目標の達成を目指し、都市の総合力を高めていきながら、人口への結果に結びつけていきたいと考えております。

後ほど説明させていただきますけれども、人口の総数につきましては、5年ごとに国勢調査を踏まえて推計される将来人口を、常に実際の人口が上回っていくことを目標として掲げております。この説明のイメージ図を下記に掲載しております。推計人口は、直近5年間の人口増減のトレンドが反映されることから、その推計を常に上回っていく歩みを続けることにより、中長期的にはなりますけれども、まずは人口減少の流れを止め、さらに増加への転換の流れをつくっていくことで、100万都市復活に向けた道筋をつくっていきたいと考えております。

次のページでは、3つの重点戦略による都市の総合力を高めるためのイメージ図を参考で掲載しております。

次に、3つの重点戦略における主要政策の下、具体的な施策や事業を実施していく上で、の主要な成果指標を、タブレットでは15ページから16ページに第6章として記載しております。

市内総生産額、商業地地価、合計特殊出生率、健康寿命、安全な町と認識している市民の割合などといった13のアウトカムの大きな成果指標を掲げ、目標値を設定しております。現状値につきましては、括弧書きのある指標以外は2023年11月20日現在で公表されている値となっております。また、目標値につきましては、括弧書きのある指標以外は基本計画が策定されてから5年後に達成を目指す数値を掲げております。なお、将来の夢や目標を持つ子供の割合につきましては、今後、教育委員会にて、新たな教育大綱や教育プランの検討に当たって整理が行われていく予定となっておりますので、現段階では精査中とし、最終案のタイミングでお示ししたいと考えております。

また、タブレットの16ページの指標項目の下2つには、人口関連の指標を掲げております。

下から2番目が社会動態の指標となっております。これまで半世紀以上マイナスであった社会動態を、5年後に年間プラス1,000人を目指すことにしております。目標の設定の考え方としましては、現在、日本人の20歳から39歳の社会動態がマイナス約2,200人で毎年推移していることから、まずはこのマイナス幅をこの5年間で半減させることにより、全体的に社会動態をプラス1,000人を目指していくことを考えております。

一番下には、先ほど説明しました推計人口につきましては、5年ごとに国勢調査を踏まえて推計される将来人口を、常に実際の人口が上回っていくことを目標として掲げております。

また、ここで掲げた指標以外につきましても、各分野別計画の検討状況に合わせて、最終案のタイミングで追加でお示しすることも考えているところでございます。

次に、タブレットでは17ページ目以降になりますけれども、第7章として、7つの個性が輝くまちづくりとして、各区の魅力やポテンシャルなどを紹介するとともに、今後のまちづくりの方向性、参考としました市民の皆様からの意見を7区ごとに記載しております。

最後に参考としまして、タブレットでは31ページから35ページで人口に関するデータを、36ページから38ページは、目指す都市像や3つの重点戦略を検討する上で参考とさせていただきました主な意見を紹介しているページとなっております。

それでは次に、資料の順番が前後して申し訳ありませんけれども、新ビジョン検討会議の結果を報告させていただきます。06-5、所管事務、人口増加対策、第4回新ビジョン検討会議の開催結果を御覧ください。

11月28日に第4回目の新ビジョン検討会議を開催し、ただいま御説明しました素案につきまして事務局から説明を行い、各構成員から御意見をいただきました。各構成員からは、素案における目指す都市像、3つの重点戦略における政策、成果指標などにつきまして、様々な御意見をいただいたところでございます。意見の詳細は、会議録を御参照いただければと思います。各構成員からいただいた御意見につきましては、最終案に向けて整理、検討していくこととしております。なお、この会議録と併せて、当日の会議の様子のアーカイブ動画を市のホームページにアップしており、市民の皆様にも御覧いただけるようにしているところでございます。

新たなビジョンの策定に関する今後の予定ですけれども、本日の総務財政委員会での御意見や、12月1日から実施しておりますパブリックコメントで出された御意見、また、新ビジョン検討会議での御意見などを参考としながら、最終案を年明け1月下旬に策定して、総務財政委員会や第5回新ビジョン検討会議で報告を行った上で、議案として提出する予定としております。

それでは、最後になりますけれども、先ほどの基本計画の素案におけます人口に関するデータの中で一部活用しております、10月に実施しました市外転出者へのアンケート調査について、速報版ではありますが、結果を簡単に御報告させていただきます。

ファイル名06-4、所管事務、人口増加対策、市外転出者へのアンケート調査の結果報告について速報版を御覧ください。

1 ページ目の、1、実施目的です。本アンケートは、今後の定住策などの検討におきまして、転出者の転出のきっかけや北九州市の印象などを把握するために実施させていただきました。

2、実施内容です。今年1月から7月までの間に北九州市から転出した18歳から39歳の方々から無作為に抽出した5,000人にアンケートを行い、有効回答数は1,159人となっております。調査期間は令和5年10月2日から2週間で、転出先の自治体や転出のきっかけ、北九州市の印象などについて伺いました。

3の調査結果につきましては、12月上旬に、主要項目についてクロス集計を行い、報告書最終版を完成させることとしております。

それでは、調査結果の概要から、主な事項について御説明させていただきます。

タブレットでは2ページ目の資料3-2、市外転出者へのアンケート調査速報版の結果まとめを御覧ください。

まず、1の転出先の状況です。(1)、(2)は転出先の自治体となっております。都道府県別では、福岡県、東京都の順で、福岡県内では福岡市が最も多く、次いで飯塚市、行橋市などの順番となっております。なお、表の右の欄に、これらの結果を掲載する資料3-3の報告書のページと図表番号を記載しておりますので、後ほど御確認いただければと思います。

ます。

次に、2の転出の契機等です。(1)から(3)の転出の契機は、全体としては就職が最も多く、次いで転勤、結婚となっております。男女別では、就職が最も多く、次いで男性は転勤、女性は結婚となっております。年齢別では、20代前半までは進学、就職、転勤など、20代後半からは、転勤、結婚、転職などが転出の契機となっております。

続いて、(5)の転出先の検討状況ですけれども、北九州市以外に住むしかなかったとの回答が過半数を超える一方で、北九州市を含めて探したが、ほかの市区町村に決めたとの回答が8.1%ありました。

次のページを御覧ください。

最後に、3の北九州市の印象です。

全体として、日常生活の利便性、病院等の医療体制などの項目は高い評価を得ていますが、世間の評判、治安、イベントや娯楽の充実などの項目は評価が低くなっている状況となっております。男女別でも、順位は前後しますが、項目は共通しております。年齢別では、日常生活の利便性、緑、公園などの自然環境は共通し、次いで20代までは博物館、美術館などの施設の充実、30代は病院等の医療体制の項目について評価が高くなっております。その一方で、評価が低い項目につきましては、治安、世間の評判が共通しており、20代まではイベントや娯楽の充実、30代は市民性となっております。

アンケートの概要については以上になります。

本アンケートの結果につきましては、産業や生活環境、シティプロモーションなど幅広い分野での参考として各局と共有を図り、今後の社会動態の改善などに向けた組織横断的な取組に生かしてまいりたいと考えております。

長くなりましたが、以上で、人口減少対策についての報告を終了させていただきます。

○委員長（佐藤栄作君） ただいまの説明に対し、質問、意見を受けます。

なお、当局の答弁の際は、補職名をはっきりと述べ、指名を受けた後、簡潔、明確に答弁願います。

質問、意見はありませんか。大石委員。

○委員（大石正信君） お疲れさまです。

基本構想、基本計画は最上位計画ということで、本市が直面する人口減少、市内経済の衰退、硬直化する財政、こういう中でどうしたら展望が開けるのか。元気発進！北九州プランとの関係で、きちんとした総括を行っていくことによって展望が開かれると思います。単なる総花的な、あれもやります、これもやりますということじゃなくて、何が北九州で問題になっているのか、焦点をはっきりとさせる必要があると思います。基本構想の素案の中に、これまで言ってきた歴史的な総括を書いておられることについては評価をするものですが、なぜ北九州で人口が減少し、地域経済が衰退してきているのか、その分析

がまだ弱いような気がします。

私は、人口減少や本市経済の衰退は、市民所得の減少だと。先ほどのアンケートにもありましたように、なぜ多くの若者が福岡市や東京や大阪に行っているのか。そこには、働く職場と同時に、賃金、市民所得、そういうものが原因していると思うんだけど、そのあたりの分析はどのように考えておられるでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 新たなビジョンを検討するに当たりましては、これまでの取組の総括、現在の課題などを踏まえることは当然重要と考えております。そのため、新ビジョンの検討に本格的に着手しました7月の総務財政委員会で、人口関連だけでなく、産業や町のにぎわい、住環境、財政の状況などに関しての様々な統計データを中心にお示しさせていただきました。

新ビジョンの中にも少し記載させていただいておりますけども、北九州市は石炭から石油へのエネルギー転換や、製造業を中心とする第2次産業から第3次産業への構造転換、素材産業におけるアジアの台頭などの影響を受けるとともに、陸路から空路にシフトする時代に適合できなかつたといったことから、企業の流出が続き、町から活気が失われていったと、これまでも評されているところでございます。統計データを見ましても、例えば産業分野におきましては、市内総生産額の伸び悩み、特に第3次産業は他の政令市に比べて伸び悩んでいる。また、給与額が高い傾向にあります情報通信業や金融業、保険業、学術研究、専門サービスなど、そういったものが北九州市では集積が進んでいない。こうした結果により、雇用者報酬の増加率や1人当たりの課税対象所得額が政令市の中でも低いポジションとなっている状況です。

また、町のにぎわいの部分につきましても、小売業の事業所の数や年間商品販売額は減少傾向にあり、また、ホテルや旅館の施設数及び客室数は、隣の福岡市は伸びている一方で北九州市は減少傾向、人口につきましても、20代から30代の若い世代の日本人の転出超過が顕著になっていることがデータでも読み取れる状況となっております。

こうした課題を踏まえまして、新たなビジョンにおきましては、経済成長を第一と考え、稼げる町を起点として、彩りある町、安らぐ町の実現という3つの重点戦略を掲げて都市の総合力を高めていくという考え方を示させていただいているところでございます。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 大石委員。

○委員（大石正信君） 総花的じゃなくて、私が言いたいのは、稼げる町に示されているように、この30年間は失われた30年と総理大臣も言われています。何が起きているかと思ったら、企業が大きくなっていった。しかし、30年間、大企業には511兆円という得た富が蓄積される一方、労働者にはその富が還元されずに、非正規雇用や低賃金労働者が生まれ

てきた。消費税や社会保障の改悪だとか、そういう問題もあると思うんですけどね。

だから、視点として持っていただきたいのは、北九州で子供を産み育てていくためには、やはり市民所得、賃金、社会保障の充実、そういうものがなければ、北九州に住み続けようというふうにならないと思うんですよね。だからその辺も。北九州でいえば、これまで製造業の町であったのが、統計では、ケア労働者、医療や介護や福祉で働いている方が多いです。しかし、そこは非常に賃金が低い。だからこそ処遇改善だとか賃金を引き上げていこうと言われていています。私が言っているのは、そういう中身ですね。単に企業誘致だというだけじゃなくて、市民の所得、暮らし、そういうところに、もうちょっと突っ込んだ分析をしていただきたいと思うんですけど、いかがでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 分析では、先ほども申しました統計データで、市民所得もお示しさせていただきながら検討してきたところでございます。現在、素案として13の指標を掲げておりますけども、今、産業経済局が新しい成長戦略の検討をしておりますので、働く人の目線からの成果指標を追加で考えていきたいと考えております。

新たなビジョンにおける稼げる町の実現につきましては、経済成長を実現し、活力あふれる町を目指していくことを掲げておりますけども、この成長によってもたらされる果実につきましては、企業だけの話ではなく、働いている人々、労働者の方の生活が潤っていくことを目指しております。こうした考え方は、基本構想の第2章でお示しさせていただいているところでございます。

また、新たなビジョンでは、性別にかかわらず、若者も高齢者も、障害のある人もない人も、自らの目標に向かって社会に参加して活躍することを重要な視点と掲げております。就業者につきましても、ビジョンの素案の中の稼げる町の実現におきまして、稼げる人を育むというところで、企業における就業環境の整備の促進や働き方改革の推進などを記載しているところです。引き続き、企業への理解促進なども進めてまいりたいと考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 大石委員。

○委員（大石正信君） 成長の果実を市民に還元していくというのはいいと思うんだけど、それが大企業の内部留保金だとかに行くだけじゃなくて、労働者にきちんと還元されていく。一定の所得がなければ、子供を産み育てていくことができない。どうしても、賃金が高い福岡市だとか東京や大阪に流れていくわけですよね。昨日も言ったように、北九州の地域手当は3%で、岡垣や遠賀は4%、福岡市は10%、東京は20%、そういう問題もあるわけですよね。だから、抽象的な言葉だけじゃなくて、賃金を上げていく。そういう指標と同時に、直接的に賃金を上げることができなければ、子供医療の無料化とか学校給食だとか奨学金の返還免除だとかで、暮らしを応援していく、そういう視点をしっかり持って

いただきたいと要望します。

次に、一步先の価値観、これは非常に抽象的で、あまりにも分かりづらい。第4回検討会議でも、津田構成員は最後まで読まないと分からないと。松永構成員もキャッチフレーズに欠けている、アピール性が弱いと。永田構成員も危機感というのは、北九州の財政は非常に大変な状況になっている、逆に市民に伝わらないと、見直しを求めていますよね。松永委員は一步先の価値観とは何かを明確にして、インクルージョンとかダイバーシティーとか、そういう指摘もすべきだと書いていますよね。だから、3つ書いていますけども、もっと具体的に、一步先とは誰が何をどういうふうにする価値観なのか、具体的な指標がなければ、行政文書としてはふさわしくないと思うんですよね。そこら辺はどんなふうを考えておられますか。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 一步先の価値観につきましては、北九州市が今後も日本や世界に先駆けて様々な課題を克服していく過程の中で、北九州市民の皆さんが前に進んでいく上でのよりどころ、支えといいますか、そうしたものを感じてもらうための新たな価値観で、これにつきましては人それぞれ様々な価値観があると考えております。

ただ、新たなビジョンにおきましては、これまでの近代化や環境分野で日本をけん引してきた歴史、さらに、この町が持っている人の温かさなどから、まず1つ目が、市民一人一人や企業自身が持っている力を最大限に発揮する能力開花、2つ目が、市民が相互に包摂性を持ち、それぞれが望む生活や夢の実現に向けて支え合う利他の精神、地域が直面する課題を地域の力で解決し、活力を取り戻した豊かな町を次の世代に引き継ぐ持続可能なことを示しているところでございます。今後も市民一人一人が、時代に先駆けた一步先の価値観を体現できる町であり続けられるよう、北九州市として挑戦を続けていく考えを、新たなビジョンの目指す都市像で掲げているところでございます。

検討会議の中で、構成員から、ここにつきましても様々な御意見がございました。例えば、目指す都市像で一步先の価値観が出てくるけども、今私が説明した内容がもう少し本論に入っていないと見えてこないため、もう少し最初に持っていったほうがいいんじゃないかとか、あと、目指す都市像の中で、危機感を持ってという御意見もございましたけども、ビジョンができたときには参考資料として統計データ等もつけていくことで、市の現状とかも踏まえながら、市民の皆様には共有していきたいと考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 大石委員。

○委員（大石正信君） 先ほど言ったように、ダイバーシティーだとかインクルーシブとかジェンダー平等だとか、何が一步先の価値観なのかを、抽象的じゃなくてぜひ具体的に示していただきたいと要望します。

次に、稼げる町の実現。私はずっと言っていますけども、誰が稼ぐのか。本来、北九州市役所というのは、地方自治の本旨にも示されているように、住民福祉の向上なんですよ。企業は利益を上げていかなければならない、稼ぐ、これは当然のことですよ。誰のことを言っているのか。市のことを言っているのか、それとも企業のことを言っているのか。もうからない、稼げないものは切り捨てていくのか。市民サービスを直撃するような1割カットを進めていくのか。市長も本会議では、そうじゃないみたいなことを言われていたんだけど、この稼げる町というのを明確に。誰のことを言っているのか。さっきも言いましたけども、企業にもうけてもらわなきゃいけない、稼がなきゃいけない、それは当然のことで、ちゃんと労働者、働いている人たちに分配されなきゃいけないと思うんだけど、そこの表現の仕方をしっかりとさせる必要があると思うんですが。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 稼げる町で、誰が稼げるのかというお話でございましたけども、稼げる町の実現のところでは、まずは市内企業、中小企業も含めた企業の収益を、いろんな取組を進めながら上げていただく。その上で、そこで働かされている労働者の方の所得を上げていく、そういったことになってくると思います。そうした中で、市の税収が上がっていき、3つ目の重点戦略で掲げておりますけども、安らぐ町の実現、保健・医療・福祉サービスとか子育てサービスとかそういったところの維持充実に充てていきながら、また、公共施設の維持管理とかも今から出てくるところでございますので、上がった市税を充てていく。そういったことが、3つの重点戦略による成長と幸福の好循環だと考えているところでございます。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 大石委員。

○委員（大石正信君） ぜひ稼げる町というのも、その分析を。例えば今度、指定管理者については1年間延長されました。しかし、実際には物価高騰や人件費高騰で指定管理料が下がっていることによって、1社応募が7割という状況の下で、指定管理者制度そのものに大きな問題が生まれています。企業がもうければいいといっても、民間委託や指定管理者、PFI事業によって行政コストは減らされてきたかもしれないんですけども、実際に行革によって市民所得、北九州の経済財政が潤ったかという、そうっていないわけですからね。稼げる町の中身について、視点をしっかり持っていただきたいと思います。

次に、基本計画の人口問題。12ページに書いておられますけども、前回の総務財政委員会では、市長が掲げた100万都市の復活、これが実際に載っていないんじゃないかと全委員から意見が出されました。今回も、数値目標が示されていません。100万都市の復活の道筋をつくるということで、先ほど課長の答弁では、推計人口に基づいて5年ごとのデータを上回るようにするということですが、公約では100万都市の復活を掲げているわけでしょう。いつまでにどうするのかとか、例えば5年後にはどこまで持っていくのかとか、具

体的なところは何も書いていないんですけど、そこは明確にすべきじゃないんですか。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 北九州市の人口減少につきましては、委員の皆様御存じのとおり、少子・高齢化に伴う死亡数の増加、出生数の減少による自然動態のマイナス幅が大きな要因となっております。その改善に向けては、社会動態だけではなく自然動態の改善も不可欠であり、その改善につきましては長期的な視点での対策が重要となってくると考えております。また、ビジョンの中でも書いておりますけども、産業競争力の向上や、ハード、ソフト両面の生活環境の充実など、都市の総合力を高めていった結果が人口につながっていくものと我々は考えております。

そのため、重点戦略の取組の下で、新ビジョンでの人口に関する成果指標につきましては、先ほど申しました指標を掲げているところでございます。推計人口につきましては5年ごとの国勢調査の結果に基づいて出されるんですけども、直近5年間のトレンドに基づいて毎回新たに数字が更新されていくものでございます。ですから、社会動態とか自然動態の改善が見えてくる中で推計人口の数値が上がっていくことは、これまでもあっております。実際の人口が上回っていくことを5年ごとに目指していきながら、まずは人口減少が続いているトレンドを増加の方向に持っていくことに注力していき、そして、増加の道筋が見えてきたところで、今度は、ビジョンでも書いております100万都市復活への道筋と。具体的にどれぐらい先になるかはなかなか出しにくいところであるかもしれませんが、段階を追いながらお示しさせていただければと考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 大石委員。

○委員（大石正信君） 人口問題というのは、1つのことをやったから人口が増えるという単純なものではないと課長も言われましたよね。しかし、市長は、100万都市の復活と、人口減少が日本一と言われているような状況の下で100万都市をやるんだと。これに対する多くの市民の期待があって当選されたわけですよね。しかし、当選してみるとトーンダウンしていく。やっぱりそこら辺についての違和感はあると思うんですよね。

総務財政委員会で、昨年、兵庫県の明石市に視察に行きました。明石市は、日本一人口を増やすんだということは一言も言っていないんですよ。しかし、関西圏では中核都市として、10年間連続で人口が増えている。子供医療や公共施設を無料化したり、おむつ宅急便をしたり、本当に子育てに寄り添った形の応援をやっている。その中で人口が増えているわけですよね。

だから、人口増加を掲げるだけで、それに伴うような施策がなければ何も意味がないと思います。先ほど数値指標を出すと言われたんですけども、じゃあ例えば今度、市内総生産を4兆円にすると。これまで3兆8,000億円台でしたね。産業経済局長は、そのために中小企業支援をやっていくとか言われていて、100万都市の復活に向けて、各局別に数値目標

を出すと思うんだけど、それはいつまでにどういう形で出されるようになっているんでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）企画課長。

○企画課長 今回のビジョンで掲げました成果指標につきましては、都市の総合力を上げていくことで、その結果が人口に結びついていくこととなりますので、まずは都市の総合力を上げていくという視点から、大きなアウトカムの指標を掲げさせていただいているところでございます。ですから、経済系の話もありますし、子育てでいきますと合計特殊出生率1.8と掲げております。これはかなり高い目標の数値ではありますけども、国が掲げている目標でありますので、そこに向かって掲げさせていただいたところでございます。ですから、これらの指標をクリアしていくことにより、人口に結びつけていきたいと考えているところでございます。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）大石委員。

○委員（大石正信君）最後に、要望します。

前回の元気発進！北九州プランで掲げた目標がありますよね。市内経済も4兆円を目指されたと思うんだけど、行っていない。なぜ行っていないのか。例えば合計特殊出生率とか、労働者の人口を増やすとかあるけども、その中身ですね。例えば、企業が3年間はいたけどすぐに撤退していったとか、中身を見ると非正規雇用であったとか、単なる数字の埋め合わせではなくて、本当に北九州の経済が活性化していく、本市の財政が潤っていく。そのためにはきちんとした総括と同時に中身の分析も。誰がやるのか、企画調整局がやるのか。目標の進捗状況をきちんと点検して見直しをしていき、総務財政委員会に報告されるのか、そういう検証とか点検とかをきちんとしていただきたい。

○委員長（佐藤栄作君）企画課長。

○企画課長 今回のビジョンが議会の議決を経た上での話になりますけども、令和6年度からスタートすることになりますと、この基本計画で掲げた政策に基づく事業とかを整理していき、進捗状況を見ていく。あわせて、ここに掲げた成果指標につきましても、指標によっては何年かに1回しか出てこないものもありますけども、毎年毎年の達成状況とかを見て、各関係局と必要なところを協議していきながら、常に取組については検証してまいりたいと思います。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）大石委員。

○委員（大石正信君）ぜひ掲げた目標がきちんと行くような点検を。そして、ただ掲げるだけじゃなくて、その中身も含めてちゃんと行っているのかどうなのかという進捗状況を踏まえて、きちんと議会にも報告していただきたいということを要望して、終わります。

○委員長（佐藤栄作君）ほかに。戸町委員。

○委員（戸町武弘君）それではまず、人口を増やすというのは、市役所の職員の皆さんも

議会も、そして市民の方々も同じ目標ではないかなと思っています。そのためには北九州市が様々な政策を実現しなければならない。じゃあ政策は基本構想、基本計画をはみ出したものをつくれない、この中でつくっていくということで、今回、基本構想、基本計画をしっかりと精査させてもらいました。

まず、基本構想を読んだ感想を言わせてもらいますと、分かりにくい。どういうことかという、重点戦略から具体的な政策が見えてきませんでした。これは自分の感想です。しかし、1つ分かったのは、稼げる町が最優先で、稼げる町が実現したら挑戦意欲のある人たちが集まり、彩りのある町が実現すると。稼げる町、彩りある町の実現による成長の果実で、安らぐ町の実現につながるということだろうなと思っています。多分、その理解でいいと思っているんですけども、そこでこれから質問に入ります。

まず、元気発進！北九州プランの検証はされたのでしょうか。一步先の価値観の内容は、全て元気発進！北九州プランの中に書かれているように自分には見えます。それについての見解を聞きます。

さらに、一步先の価値観ということは、現在の価値観があるんでしょから、現在の価値観はどんなものであると考えているのでしょうか。

次に、北九州市は専門性を持った団体が多数存在しますが、各種団体のヒアリングはしたのでしょうか。

次に、経済が前面に出て、福祉、教育に対する言及が少ないのではないかという感じがしますが、見解を聞きます。

次に、基礎的自治体である北九州市の基本構想の重点戦略が稼げる町というのは、少し違和感があります。もっとよい言葉はないのでしょうか。企業の社是でも、利益追求とかそういったことを書いている企業は聞いたことがございません。

まずは、この質問をしたいと思います。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 戸町委員から何点か御質問いただきましたので、順次回答させていただきます。

元気発進！北九州プランの検証をしたのかというところでありまして、元気発進！北九州プランにつきましては、これまで毎年度毎年度の行政評価の中で、掲げた施策とか事業の総括はさせていただいたところがございます。事業とか施策については行政評価の中でやってきたという整理でありますので、先ほど大石委員の御質問の中でも言いましたが、その結果として、統計的にどうなっているかは、新ビジョンを検討するに当たっての統計データ等で分析したと整理させていただいているところがございます。

2点目の、一步先の価値観、新ビジョンで掲げたものは元気発進！北九州プランでも既に掲げられているのではないかというところの見解でございます。

ここで掲げた3つの価値観につきましては、これまでの北九州市の取組とか北九州市民の特性とかを踏まえて、市長以下で、事例として掲げさせていただいたところがございますので、元気発進！北九州プランでこれまで踏襲してきたところを踏まえた価値観になっているのではないかと考えているところでございます。

それと、3つ目の質問の、現在の価値観が何なのかでございすけども、ここにつきましては、ビジョンの中では、北九州市として考える価値観はこの3つということで、例とか、などという書き方をさせていただいています。やはり価値観というものは市民一人一人が持っている価値観でございすので、一概に現在の価値観が何なのか、私としてはなかなか答えにくいところはあるんですけども、これまで環境とかSDGsとかそういったことをやってきた歴史とか取組を踏まえますと、一步先の価値観は、今後の価値観ということで、新たなビジョンでは持続可能とかを掲げております。これまでの取組の中にもこういった価値観はあると思います。持続可能とか、利他の精神と書いておりますけども、北九州市民の人情とかそういったところも価値観としていくことで、現在もまだあるのではないかと考えております。

それと、団体等の意見につきましては担当課長から御回答させていただきます。

福祉のところの書き込みが弱いのではないかと御質問だったと思います。

我々としましては、3つ目の重点戦略は、市民の皆様が安全・安心に暮らしていける安らぐ町の実現ということで、2番目の暮らしの安心を支えるというところに、福祉とか医療とかは書き込んでいるところでございます。

それと、6つ目の質問にありました、稼げる町の実現という表現がどうなのかという御質問だったと思います。ここにつきましては、市長以下で検討する際にもいろいろ議論をさせていただいたところがございます。ただ、やはり経済成長が最優先課題だという今の市長以下、我々の考えを市民の皆様へ訴えかけていく一つのキーワードとしては、稼げる町の実現が市民の皆様や企業の皆様へ響いてくるんじゃないかということで整理をさせていただいているところでございます。

先ほどの団体の意見につきましては担当課長から御回答させていただきます。

○委員長（佐藤栄作君） 企画担当課長。

○企画担当課長 関係団体のヒアリングについてでございますが、10月から、関係各局の協力をいただきヒアリングを行わせていただいております。この時点では、新ビジョンについての素案という形ではございませんでしたので、目指す都市像や目指す都市像の実現に向けて取り組むことなどに対しての考え方を示し、市内の76の団体から対面または書面の方法で意見聴取を実施させていただきました。

こちらの対象団体につきましては、元気発進！北九州プランの策定時にヒアリングを行いました30の団体を参考に、新たな団体も加えて76の団体に意見聴取を実施させていただ

いたところでございます。たくさんの御意見をいただき、素案の取りまとめの参考にさせていただきます。

また、分野別、細かな具体の事業につながるような御意見につきましては、分野別政策や具体の事業に関する関係各局に情報を共有するようにさせていただいております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 戸町委員。

○委員（戸町武弘君） まず、元気発進！北九州プランの検証は毎年行政評価でしてきたと、その統計データを基に評価をしてきたと理解しました。

一歩先の価値観なんですけども、よく分からなかった。現在の価値観が何であって、その先の、一歩先ということは、今があるから一歩先の価値観でやりましょうと言っているのではないかと思います。これもよく分からなかった。だから、それ以上何とも言えないですね。それだけ表明しておきます。

そして、団体のヒアリングをしたということなんですけども、我々の耳にはあまり団体からヒアリングされたという話は聞こえてこないもので、後でまた、どういう団体にヒアリングしたかをお示してください。

そして、これを読むと、やっぱり稼げる町、稼げる町、稼げる町と。で、福祉、教育っていうのが本当に少しほんわかしているという気がするわけなんです。最初に、人の数だけスポットライトがあると、こう書いていますよね。この辺は非常に柔らかくて、ちょっとポエムみたいだなと思って読んでいたんです。すごく優しさを感じるんですが、内容を読んでいったら、稼げる町がメインですよというのがすごく印象に残ったので、私としてはもう少し福祉や教育に対する言及をすべきじゃないかという気がしました。

今人口が増えているところは、子育て支援が充実したりしてきているわけですよ。先ほど大石委員からもございましたけども、すごく感じるのは、武内市政が発足して、これまでずっと我々と議論してきている中で、財政破綻しかかっているとか財政危機とかという言葉がある中で100万都市を目指す。じゃあ100万都市を目指すために何をしないと駄目かと思ったら、やっぱり子育て支援をやらないと駄目で、経済の基盤をつくらんといけん、インフラも整備し直さんといけん。じゃあどうするのっていうのがすごくアンバランスに感じてしまうんですよ。だからこそ、この構想の中では最初に経済で、稼ぐんですよっていうのが先に来ていると思うんですけども、その辺がよく整理されていないなと私は感じます。

この稼げる町という言葉なんですけど、私はもっといい言葉が本当はないのかなと思うんですよ。例えば、企業の理念、理想の下にある企業の社是でも、地域に貢献をし、そして世界に羽ばたく何とかとか、そういったことが来るわけですよ。当然ながら、企業ですから利益を追求しないと駄目で、利益追求が根本なんですけど、それを出す企業を私は

あまり聞いたことがない。だから、これもぜひもう一回検討したほうがいいのではないかなと思います。

次に、質問に入ります。

もう少し深掘りして、一步先の価値観についてなんですけども、3つ出されているんですよ。能力開花、利他の精神、そして持続可能性と、3つ出してきている。先ほど、様々な価値観があるという話が答弁の中であったんですけども、これを素直に読んだらどう見えるかっていうと、能力開花の項では、市民や企業に持っている力を最大限に発揮しなさいよと。そして、利他の精神の項では、市民に支え合いなさいと。そして、持続可能性の項では、地域の問題は地域で解決しなさいと、自分はそのように読み取れてしまうんですよ。初めの2項は、市民の心や行動を規定しているように感じてしまう。3項目めは、行政は地域課題にタッチしないというふうにも読み取れるんですけども、その辺の見解を聞きたいと思います。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 この価値観の表現につきましては、戸町委員が言われたように、市民の方への押しつけとか、市はもうタッチしないとか、そういった考えは当然持っておりません。

それから、ここの見せ方がもう少し工夫ができないかについては、今、戸町委員が言われたように、私も正直そういった見方をされることもあると思います。我々としては、こういったところを市民の皆さんとか企業の皆さんに感じていただきながら一緒に進めていきたいと思いますという思いの下で書いているところでございます。4回目の検討会議でも、ここの表現について御意見も幾つかいただいておりますので、最終案に向けて、そういった誤解がないように、こういった表現ができるかは再度整理させていただきたいと思います。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 企画調整局長。

○企画調整局長 先ほどの一步先の価値観の補足なんですけれど、基本構想の6ページに書いていますように、これまで北九州市の歴史は、産業革命が起こって、公害が発生し、そしてそれを克服して、環境の先進都市になり、SDGsの推進都市になったと。要は時代を先取りというか、今まで北九州市がたどった歴史は、やっぱり日本の中でも他の都市に先駆けているいろんなことが起こっている。それを一步先という表現で書かせていただいて、それを克服してきた都市のDNAとか情熱であるとか技術であるとかそういったものがこの北九州市の町に根づいているというところが一步先というか、いつの時代も他都市より先に起こってきたという意味の一步先というところを表現させていただいております。それを体現していく中で、能力開花ですとか、支え合うですとか、持続可能性であるとか、そういったところを市民がずっと分かち合ってきたとか理解し合ってきているのが、この3つじゃないかなということを書かせていただいております。

タウンミーティング、ミライ・トークで各区を回らせていただき、若者の方、それから働いている女性の方々、いろんな方々にお話を聞かせていただく中で、やはりこういったお話がよく出ます。そういった意味も含めて、歴史を先にたどってきたという意味での価値観と御理解いただけたらありがたいと思っております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 戸町委員。

○委員（戸町武弘君） ということは、そもそもこの3つを出しているからこそ勘違いしてしまう気がするんですね。例えば、北九州が目指す都市像として、つながりと情熱と技術で一步先の価値観を実現すると書かれたら、この3つの価値観を実現するんだと、そのような都市をつくるんだと勘違いしちゃうわけですよ。

今の局長の話を知ったら、自分の理解としては、それぞれの人々が、これから社会や世界が変わっていく中で、それが持続可能であり、自分たちの能力が開発できるような世界をつくろうという価値観を実現できるような北九州市を目指しますと言っているのかなという気がするわけなんですよ。こう書いてしまうと、この価値観が独り歩きしちゃって、この価値観を目指す、実現する都市をつくりますと。私はこの後の質問で、一步先の価値観を市民や企業に強制するのですかと言おうかなと思ったんですけども、それは局長の答弁で、そうじゃないんですよという話がありました。だけど、書きぶりがどうなのかなとすごく思うんですね。

私は基本的に、行政がこういう価値観を持ってこういう町をつくりますっていうのが基本構想だと考えているんですね。それが大前提じゃないのかなと思うんです。だから、決して市民にこういう価値観を持ちなさいよというのが基本構想じゃないと感じています。

私がこれを読んで、なぜそう感じるか。実は武内市長のこれまでの言葉、答弁にあるんですね。武内市長は本会議場でもよく言うんですけど、我々に対して、市長の目線に合わせてという言葉をよく使われるわけなんです。しかし、実はこれはとんでもないことなんです。我々議員は、市長と違う目線で行政をチェックするのが責務なんですよ。これが仕事なんです。もし市長と同じ目線で物事を考えたら、これは専制政治というんですよ。違うんですよ、我々は。我々が目線を合わせるべきところは何かという、市民なんです。我々は市民に目線を合わせて、そこで我々の議員としての責務を果たしていく、これが大前提です。自分はそう考えておるもので、これを読んだときに勘違いしちゃったのかもしれない。だけど、表現も少し変えられたほうがいいんじゃないかと思うんですよ。価値観という言葉が使われると、結構思想的なものも入りますので、どうかなという気がしました。

そして、北九州市が目指す都市像は、つながりと情熱と技術で一步先の価値観を実現するグローバル挑戦都市・北九州って書いているんですけども、グローバル都市とは一体どんな都市でしょうか。これは質問です。

○委員長（佐藤栄作君）企画課長。

○企画課長 基本構想の考え方の中でお示ししておりますけど、今後の人口減少とか、気候変動とか、そういった日本や世界が抱える様々な課題に対して、北九州市が解決の道筋を、日本や特にアジアとか世界にお示ししていきながら貢献していく、そういったことをグローバルと掲げさせていただいたところでございます。以上です。

○委員長（佐藤栄作君）戸町委員。

○委員（戸町武弘君）よく行政はグローバルという言葉が使われるんですけども、物すごく違和感があるというか、これを直訳したら地球規模挑戦都市・北九州ってなるんですよね。ぴんとこないんですよ。というのも、自分の中で、やっぱりグローバルっていったらボーダーレスっていう意味合いも入っているんじゃないのかなと思うんですよね。これはぜひ調べてもらいたいんですけども、私はここにはやっぱり違和感がある。自分がもし書くとしたら、こう書くなと思ったんですよ。グローバル人材が活躍できる挑戦都市・北九州、これならぴんとくるんですよね。グローバルで活躍する人たち、ボーダーレスで地球規模で活躍する人たちが北九州で挑戦できるんですと、北九州で挑戦できる都市をつくります。それこそが、最初に話した、稼げる町が実現したら、挑戦意欲がある人が集まるところにぴったりはまるのかなと思ったんです。これは自分の感想ですから、じゃあ次に入りたいと思います。

次に、基本計画です。第5章の将来推計人口を常に上回るイメージですが、この図を出す意味はどういうことでしょうか。なぜこの図を出しているのか、よく分からなかったもので。

○委員長（佐藤栄作君）企画課長。

○企画課長 第5章でイメージ図を掲げた意図としましては、人口に対する成果指標の一つとして、5年ごとに国勢調査の結果に基づいて出される推計人口を常に上回っていくということを説明の中にも書いています。文章だけではなかなかイメージできにくいということで、あくまでもイメージ図になりますが、点線で2040年は80万7,022人という現在出されている推計人口の予測を示しているんですけども、年内には令和2年の国勢調査の結果を基にした新しい推計人口が出てくる予定になっておりますので、そこで出てきた2025年の推計人口は幾らになっているかを見ていきながら、これを実際の人口が上回っていく。薄いグレーの矢印が実際の人口で、上げていきたいというイメージ図なんですけども、5年ごとの推計人口を常に上回っていくというイメージで掲げているところでございます。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）戸町委員。

○委員（戸町武弘君）目から入ってくる情報というのはすごくインパクトを持っていると思うんですけども、あたかも人口がこのように推移する計画が立てられているとミスリー

ドしてしまうような気がします。もしこれを出すなら、それぞれ年度の推計人口とかを出していかないと、ちょっとまずいのかなという気がしました。

次に、第6章の主要な成果指標についてなんですけども、市内総生産額、名目について、令和3年、令和4年のデータを持っているようでしたら教えてほしいんですが、持っているでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）企画課長。

○企画課長 市内総生産につきましては、出していくのに若干タイムラグがありまして、今出ているのが令和2年の数字になっております。

○委員長（佐藤栄作君）戸町委員。

○委員（戸町武弘君）これまでずっとデフレだったんですよね。現在、インフレに入ろうとしているんですけども、当然ながら、インフレに入ったら市内総生産もどんどん上がるんじゃないかという気がするんですよね。だから、目標が本当にこれぐらいの数値でいいのかと感じます。例えば、政府のインフレ目標は2%だったと思うんですよね。人口がどんどん増えるように、経済を活性化していくと考えたときに、もう少しあってもいいのかなという気がしました。

次に、商業地についてですが、具体的な数字は村上委員が質問されると思うんですけども、小倉、黒崎については言及されていますが、その他の地域はどうなる予定でしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）企画課長。

○企画課長 7月にお示しした統計データの中でも、商業地とか住宅地の平均についての政令市比較を出させていただいております。成果指標につきましては、まず北九州市の主要なJRの、北九州の窓口というか顔になります小倉と、住宅地とかで新たな展開をこれから進めていかないといけない黒崎といったところで、小倉、黒崎を掲げさせていただいております。全体的な住宅地とか商業地につきましても、引き続きビジョンで掲げた様々な政策に取り組んでいくことで現況を変えていきたいと考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）戸町委員。

○委員（戸町武弘君）具体的な数字は言及しないということでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）企画課長。

○企画課長 今回の新ビジョンに掲げた13の成果指標につきましては、関係局と協議しながらピックアップして整理したところがございます。戸町委員が言われるように、市全体の平均とかをどういった出し方にするのかは、また建築都市局とかと協議しながらになると思います。将来の目標がどういった形で出せるかは協議させていただきたいと思えます。以上です。

○委員長（佐藤栄作君）戸町委員。

○委員（戸町武弘君） というのも、最後のほうで八幡東区のことにも言及されているんですが、東田と商業地域をつないで活性化しますみたいなことを書いているわけです。そして、特に東田の近くには枝光商店街、そして中央町商店街がありますので、やっぱりそういうところにも言及してもらいたいなど。他の区の議員たちもそういうふうを感じるんではないかなと思います。

次に、社会動態を5年後に1,000人プラスと書かれておりますが、自然増減はどう考えているのでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 人口は今の減少を増加に、プラスに転換させていく、人口の総数のトレンドを変えていくということになりますと、先ほどの御答弁でもお話ししましたとおり、今の人口減少の大きな要因というのは自然動態、死亡数のマイナス幅が大きいというところになります。死亡数の抑制というのはなかなか難しいところがございますので、まずは社会動態をプラス1,000人ということで、若い世代、特に20代、30代をターゲットに増やしていくとともに、子育てとか福祉とか、今回の戦略で掲げたところを総合的にやっていきながら出生数の増加を目指していく。そういった中で合計特殊出生率1.8を掲げさせていただいております。社会動態のところでは若い世代を増やしていきながら、合計特殊出生率も上げていきながら、出生数の増加に向けて取り組み、自然動態の改善に結びつけていきたいと考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 戸町委員。

○委員（戸町武弘君） やはり福祉とか子育てをしっかりと政策に反映しないと、自然増ってというのはなかなか難しい。東京都は高校まで無償化していく、そして、給食費も助成すると言っている。他の地域では無償化が始まったところもある。だから、そういった政策をしっかりと皆様方で考えないと人口100万というのはとても達成できないと考えております。

行政側はずっとはっきり言わないし、示さないというふうにはっきりしているのかもしれないんですけども、基本計画の最終年度の人口をどう考えているのか、これを聞いてみたいと思います。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 繰り返しになって申し訳ないんですけども、我々としては、人口というのは都市の総合力を上げた結果になりますので、2040年に幾らを目指すというのはなかなか出しにくいところがございます。まずは今の人口減少のトレンドを増加に変えていくところに注力していきながら、その道筋が見えてきたところで、増加に転じるのがいつになるのかというのもなかなか言及しにくいところではありますけども、随時道筋をつけていきながらお示しさせていただきたいと考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 戸町委員。

○委員（戸町武弘君） なぜこの質問が皆さんから出るのか。皆さんそれぞれなんですけれども、私としては、人口規模というのは都市の規模に密接に関連しているんですよね。この基本構想、基本計画の中にも、都市の規模に見合ったインフラの整備と、たしかそんな表現があったと思うんです。そしたら、人口が最終的にどうなるかによって、都市のインフラも変わってくるわけですよ。当然ながら、そこに投入する予算も変わってくるはずなんです。長寿命化に対してもそう。これで計画が本当につくれるのかなという気がします。やはり確固とした数値を示さないと、なかなか整合性が取れないんじゃないのかなと思います。

元気発進！北九州プランのときに、行政と大議論したんですよね。名前は出しませんが、これをつくっていた人とですね。我々議会側は、100万人を目指すんだと、だから都市の規模もこうやるべきだという話で議論になった。そして、行政側は、いやいや統計上はこうなるんですから、これに見合ったインフラにしますという話で、大激論になったんですよ。私はそういう議論をやっぱり行政と議会ですべきだと思うんです。

最後に、人口問題について。市外転出者アンケートを見せてもらったら、進学で転出するというのが11.8%もあるんですね。そしたら、この11.8%を何とかとどめる政策もしたほうがいいんじゃないのかなと。そう考えたときに、北九州市立大学を含め、北九州にある大学の強化をやらなくともったいないんじゃないかなと思っています。

前に本会議で、村上委員が大学の合併の話をしましたよね。東京の大学に並ぶような偏差値を目指す政策も取り入れて、市外からもこの大学に来たいと。例えば、大分に有名な大学がありますよね。全部英語にしちゃって、たくさんの方が来ている。そういう政策もぜひ練ってもらいたいという気がしました。すみません、長くなりました。以上で終わります。

○委員長（佐藤栄作君） ほかに。村上幸一委員。

○委員（村上幸一君） まず、基本構想について要望なんです。私からも、一步先の価値観は分かりにくいので、ぜひ市民の皆さんが見てわくわくするような期待を込めて、分かりやすさを追求していただきたいと思います。これは要望にします。

次に、基本計画について。稼げる町というところなんです。私としては、この稼げる町、企業も個人も行政も稼いでもらって、その北九州で稼いだお金を北九州に落としてもらうと、そこまで入れてほしいと思っています。どういうことかということ、まず前提として、成果指標の中でも商業地地価を1.5倍まで上げていくとなっていますが、これまで基準地は最近ずっと上がっていました。上がっている理由というのは、マンション用地として上がっていると。商業地じゃなくてマンション用地として上がっているということが1つ特徴なんです。そういう中で、どういうことをすることによって、1.5倍を目指してい

くのか気になったもので、そこをできたらお答えいただきたいと思います。

それともう一つ、北九州の人口の移動というのはやっぱり福岡なんですよ。福岡市に行く、特に女性が多い。これは何度も言っているんですが、僕は時々土日に黒崎から特急に乗って博多に行くことがあるんですけど、特急の中は本当に若い女性でいっぱいなんですよ。僕はてっきり、その女性の人たちは小倉から乗っているのかなと思ったんで、黒崎駅の駅長に小倉から乗っているんですかと聞くと、そうじゃなくて大分から乗っているというんですね。多分、女性が買い物に行くのは土日なので、残念ながら北九州は通過都市、小倉の町は通過するんですよ。大分の人が福岡でお金を落としているというような状況になっています。

インバウンドに関連してデパートの関係者から聞いたんですけども、実はコロナも明けて、海外の人が戻ってきましたよ。今、福岡にはデパートが4つありますよね。ひと月の売上げが、要するに免税品ですね、20億円あるそうです。それに対して、北九州はどれぐらいかと聞いたら、ひと月の売り上げが3,000万円だと。皆さん、福岡で買い物をしている状況にある。観光で北九州に来て、買物は福岡でということは、やっぱりお金を落とすのは福岡だということになっているんですよ。そういったところがやっぱり若い人が好む雇用を生み出すんだと僕は思っています。例えばファッションに関するものとか、飲食に関してもそうだと思うんですけども、若い女性が福岡にと書いているのはそこじゃないのかなと思っているんですよ。女性にも北九州に来てもらうためには、もちろん今北九州がやっている洋上風力も物流も大切ですけども、若い女性たちが好むような職業もやっぱり北九州になればいけないと思っています。仮にそういった物流とか風力とかではなく、女性は別のところで働いてもいいんですけども、そのお金をやっぱり北九州で落してもらわなければ。福岡で落とすんだったら、稼いでもその一部は福岡のために稼ぎよるみたいになってくるんで。そこが福岡市がどんどん発展して行って商業がすごく盛んになって、そして、みんなが福岡に憧れるということにつながっていていると個人的には思っています。そういったことをしていくことが、稼いで、その先にお金を落とすことになっていくのではないかなと思っています。

そこで質問としては、さっき言った商業地域をまず1.5倍にするまでに、どのような道筋を考えているのかということと、女性が福岡に行くことを食い止める施策として、先ほど大石委員が言われたことも当然だと思うんですけど、どのように考えているのか、お聞かせいただきたいと思います。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 2点御質問をいただきました。

まず1点目の、商業地を1.5倍にという考え方を説明させていただきます。

これにつきましては、関係局と協議して目標値の設定をさせていただいたんですけども、

例えば広島とか神戸につきましては、平成25年から令和5年の10年間で商業地地価が5割程度増加しているところがございます。これはやはり計画的な都市整備を進めることで達成しておりますので、1.5倍の道筋をどうつけていくかというところは、サービス業単体でいろいろ政策を打っていくとかそんな話ではなくて、都市計画全体でやっていく。建築都市局とも協議しながら考えているところがございます。こういったことを段階を踏まえながらやっていきたいと考えております。

それと、福岡市へ女性が転出しているということもございますけども、新たなビジョンの検討の最初の段階から、稼げる町の実現の後に、村上委員が言われたように、稼いだお金を北九州市でいかに使ってもらおうかというのが非常に重要な視点だと我々も考えてまいりました。そうした中で、2つ目の重点戦略になります彩りある町の実現で、まちづくり、町並みとか、魅力的な町をつくっていくことにより、若者や女性たちが消費活動とか、そういう意欲を高めていくと考えております。

それで、仕事とかでも、特に女性の福岡市への転出が多いということは、やはり福岡市が北九州市に比べて残念ながら魅力的といったところもでございます。女性が働きやすい職場、サービス業とかそういったところも強めていきながら、女性に残っていただいて、こちらで活躍して、ここで消費してもらおうという、3つの重点戦略をうまく回していきながら進めてまいりたいと考えております。

それと、すみません、先ほど広島と神戸と言いましたけども、広島と熊本と訂正させていただきます。失礼いたしました。

○委員長（佐藤栄作君） 村上幸一委員。

○委員（村上幸一君） 今、都市整備に基づいて、商業地の地価を1.5倍までにということだったんですが、建築都市局と一緒にとなれば、区画整理とか再開発が前提になると思うんですけども、熊本には時々遊びに行ったりするんですが、再開発をしているとかそういうイメージはあまりない。福岡はビッグバンとかという形で再開発をやっているんですけども、そういうイメージはあまりなかったもので。私自身としては、1.5倍まで上げていくためには、商業地ですから商業がもうからないと土地の値段は上がらないと。商売人の人たちが、ここで商売をしたい、オフィスをつくりたいというようなことがなければ、商業地地価は上がらないと思うんですね。

もちろん先ほど課長が言われたとおり、北九州で買物をする、消費するということに関しては、彩りある町のところに一部書かれていますけども、要するに、居心地がよく、出かけたくなると、歩きたくなるということがキーワードだと思うんです。僕は出かけるだけじゃなくて、やっぱりお金を使いたくなる。今、北九州に観光で来ても、観光に出かけたくなるだけなんじゃないかなと。やっぱりそこでお金を使ってもらえるようにしなくちゃいけないと。インバウンドで、コロナの前はクルーズ船がたくさん福岡に来ていました。そ

のときに、太宰府天満宮の関係者がこう言った。ちょっと変なことを言いますけども、太宰府天満宮ではトイレだけしか落とさんと、お金は全部福岡で落とすと、そういう言い方をされたのをすごく記憶しているんです。北九州にも観光で来ていただくことはとても大切だと思っているんですけど、そうした中でいかにお金を落としてもらうか。稼げる町をつくるのであれば、やっぱりそこまでこだわってほしいというのが僕の気持ちなんです。商業も活性化させていかなくちゃいけない。せっかくガールズコレクションという若い女性たちが好むようなファッションショーまでやっているわけですから、それを見た人が福岡で買ったり、ネットで買ったんじゃないかと思っています。基本計画の中に、北九州でもっとも消費が増えるということまで。もちろん飲食もあります、宿泊もあります、そういったところでお金を落とす町にしていくべきだと思うんです。これは要望ですが、それに対する課長の見解があれば教えていただければと思います。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 先ほども申しましたように、基本構想の3つの重点戦略の考え方の中では消費にも触れているところがございます。村上委員からの御指摘の点をどういった形で基本計画に書き込めるかは、また産業経済局とかと整理してまいりたいと思います。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 村上幸一委員。

○委員（村上幸一君） せっかく基本構想の中に消費が入っているのであれば、基本計画の中でももっと深掘りして入れていただいて。北九州が素通りされていると。何で大分の人が素通りするのかというと、小倉にあるものは大分にもあるわけですよ。だから、小倉には寄る必要がないから、みんな博多まで行くというのが、特急の中に若い女性がいっぱい乗っている理由だろうと思うんですよ。そういった意味で、商業で福岡に負けないようにというのは大変難しい事柄だと思いますけども、せっかく稼ぐんですから、稼いでもらう町をぜひつくってもらいたいと思います。そのお金をぜひ北九州で落とせるようにしていただければ。それを基本計画の中に反映していただければありがたいなと思っています。以上です。

○委員長（佐藤栄作君） ほかにありませんか。岡本委員。

○委員（岡本義之君） 私からも数点質問させていただきます。

まず初めに、今年6月の予算特別委員会の市長質疑で、私は、今後つくっていく新ビジョンの中に、第2期北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略をどう位置づけていくのかということと、新ビジョンにおける指標となるKPIに、ぜひウェルビーイングの指標を導入してほしいという要望をさせていただきました。

まず、この位置づけは計画の3ページに書いていますけども、今後の地方創生の取組の方向性はこの基本計画に掲げる方向性と合致することから、地方創生総合戦略は基本的に

包含し、一体的に取り組みますと。この総合戦略がなくなって、包含して一体的に、具体的にビジョンの中に言葉として入れていくものなのか、形としては残ったままなのか、地方自治体によっていろいろあるみたいですけど、そこを分かりやすく教えてください。

それから、ウェルビーイングの指標に関してなんですけど、市長は、成長によって生み出された元気とにぎわいを、安心や楽しさ、心の豊かさといった幸福を生み出す元手とする好循環を回していきながら、市民の幸福度や満足度の高い都市を目指していきたいと答えています。こうした観点から、私が指摘した暮らしやすさなどを数値化した地域幸福度、いわゆるウェルビーイング指標の考え方とも通じるものがあると考えております。いずれにしても、新たなビジョンにおける指標の在り方について、市民全体での議論を喚起しながら、新たなビジョン策定の中で検討してまいりますと答弁されていますが、これまで、どういう議論がされ、実際、市民全体で議論を喚起してきたのか、教えていただきたいと思えます。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 まず、新ビジョンとまち・ひと・しごと創生総合戦略の整理についての御質問がございました。

今回の新たなビジョンでは稼げる町、彩りある町、安らぐ町の実現に向けた重点戦略に加えまして、人口や経済などの指標も掲げたところでございます。これらの新ビジョンの方向性につきましては、まち・ひと・しごと創生総合戦略の視点、方向性と共通するものであることから、今回、基本計画の素案を策定するに当たって、まち・ひと・しごと創生総合戦略を包含する、具体的には、令和6年度から新たなビジョンがスタートしたときには、まち・ひと・しごと創生総合戦略の第2期につきましては今年度末で終了し、新しいビジョンの下で、地方創生の取組も含めて展開していくことを考えております。

一本化することにつきましては、国からも、総合計画等を見直す場合に地方創生に関する目標や指標が設定されるなど、まち・ひと・しごとというか、地方版の総合戦略の内容を備えていれば、一つのものとして策定することは可能であると示されております。実際に、こうした国の考え方を踏まえまして、政令市でも今8都市が総合計画の見直しのタイミングで、我々でいうまち・ひと・しごと創生総合戦略との一体化を図っているところでございます。北九州市としても、令和6年度からこの新ビジョンがスタートすることになれば一本化させていただきたいと考えております。

それと、ウェルビーイング指標の御質問がございました。

委員は御承知と思えますけども、ウェルビーイング指標につきましては地域幸福度指標と言われており、医療や福祉、住宅環境、子育て、こういった24分野につきましては、各種統計データによる客観的な指標と市民などへのアンケート調査による主観的な指標をそれぞれ数値化、可視化してつくられているものでございます。ウェルビーイング指標につき

ましては、地域の幸福度、満足度を測る指標として有効な指標であると我々も認識しております。

ただ、今年度、国の骨太の方針の中に、政府の各種計画にウェルビーイング指標の導入を加速するということが示されておりますけども、国が策定したデジタル田園都市国家構想総合戦略本体のK P Iの中にはまだウェルビーイング指標は活用されていない状況となっております。ですから、ウェルビーイング指標の活用につきましては、今後の国の議論の経過とか他都市での活用状況などを見ていながら検討していきたいと考えております。

先ほど、ウェルビーイングの指標の24分野の中には、客観的な指標と主観的な指標が組み合わされていると御説明させていただきましたけども、今回の新ビジョンの成果指標を検討するに当たり、素案で示した13の成果指標につきましても、例えば商業地地価といった統計データのなものも使っておりますし、アンケートによる市民の主観的な成果指標も組み合わせながら進めているところでございます。今後、ウェルビーイングの考え方も踏まえながら、必要があれば考えていきたいと考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 岡本委員。

○委員（岡本義之君） 私はぜひ必要があると思って質問させていただきましたので、それを御理解いただきたいと思えます。

その上で、今回、北九州市を出ていった方、福岡とか東京へ行った方へのアンケート調査の中でデータがあったら。僕が見る限り見つけられなかったんですけど、出ていったんだけど地元へのUターンの意向がある人ですね。必ず戻るという人は、全国平均で2.9%みたいなんですね。それから、いつかはぜひ戻りたいと考えている人は14.9%で、強いUターン意向を持っている人が17.8%、これは北九州市ではなく全体です。戻ることも選択肢の一つとして考えているという緩めの可能性としては、Uターン意向率が52.0%。一番高いのは、実は沖縄なんですね。沖縄は、幸福度は都道府県で一番です。幸福度がしっかり取り組まれている。幸福度で皆さんがいいところだと思われているところはUターンすると。いろいろあると思えますけど、1位から5位ぐらいまでは結構関連性があります。それから、出生率、子供が生まれるのにも関係している。そもそも地方創生というのは人口を増やすこと、減らさないということでやってきましたけど、逆に、人が減らない町をいかにつくるかということが一番大事であって、順番を間違えていた部分もあったかなと思えますので、この幸福度に関してはぜひとも指標にしていきたいと思えます。

2021年6月18日は、日本国の政策のK P Iとして正式にウェルビーイングが採用された記念すべき日になっています。この日、グリーン社会の実現、官民挙げたデジタル化の加速、日本全体を元気にする活力ある地方づくり、少子化の克服、子供を産み育てやすい社会の実現の4本柱から成る経済財政運営と改革の基本方針2021骨太の方針が閣議決定され

た。注目すべきは、この中でウェルビーイングに関するKPIを設定することが明記されたことだと。同日に発表された成長戦略実行計画案には、新たな日常に向けた成長戦略の考え方として、国民がウェルビーイングを実感できる社会の実現を目指すことが示されました。過去にも何回か我が国は幸福度を目標にしていることがあったみたいですが、なかなか実現してこなかったんですね。先ほど言いましたように、まだ国は明確に示されていないということもありますけど、しっかり研究していただいて、これを指標にするかどうかで取組方も変わってくるのではないかと思いますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

2つ目なんですけど、前から言われていますが、我が国は高齢化が本格化して超高齢社会を迎えると。2030年以降には3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上。人口が減少する中にありながら、高齢者だけは少なくとも2040年までは増加する見通しになっている中で、2040年に北九州市の実態がどうなるか認識していますでしょうか。2025年でもいいです。高齢者の人口はどんな傾向になっているか。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 基本計画の最後に、人口に関するデータを参考につけております。タブレットでは35ページです。先ほどから何度かお話ししております国勢調査の結果を基にした将来推計で、これはまだ平成27年の国勢調査の結果を基にした数字にはなりますけども、それによりますと、新ビジョンの目標年次にしております2040年、北九州市の総人口は80万7,000人と推計されております。その中で、65歳以上の人口につきましては29万6,000人と推計されているところでございます。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 岡本委員。

○委員（岡本義之君） 2025年の高齢者向けのマーケットの市場規模というのがあって、医療や医薬産業に35兆円、高齢者の方たちが使われるお金も含めて、公的なお金も出ています。介護産業が15.2兆円で、全部で50.2兆円になるんですけど、公的支出が44.0兆円で、高齢者が負担しているのが6.2兆円の消費支出です。これ以外に、高齢者が生活の産業関係で支出しているお金は51.1兆円と、半分以上になっているんですね。高齢者といえば医療とか介護にばかりお金がかかっているイメージがありますが、100兆円近くの支出のうち半分以上は生活産業とか旅行へ行ったりしている。で、北九州市の3分の1以上は高齢者が住んでいる。確かに、若い人に帰ってきてもらうことも住んでもらうことも大事なんですけど、日本の中でも特に高齢化が進んでいて先頭を走っていると言われてきたこの北九州市に住んでいる高齢者の方に本当に住みやすいと思ってもらえるように。これまではなかなか企業がそこに入ってこなかったんですね。特に65歳以上は、1対8対1で分けると、結構裕福な1の人と、虚弱でいろんな介護やサポートが必要な1の人、あと8割は言葉は悪いんですけど、普通の高齢者という分析もあります。ただ、ここが何を求めているかは

あまり調査していないので、新しいビジョンの中ではちらほら該当するような言葉も出てきていますけど、高齢者にとって何をしてもらうことが住みやすい町なのかという観点も、しっかり勉強していただいて。生命保険会社とかが最近どうも介護関係の企業を買収したりしていて、多分、保険会社とかが高齢者に対する市場拡大に動き始めているんじゃないかなって気がするんですよ。北九州に3分の1以上住まれている高齢者のために、例えば買物にしても何にしても、お金がある方は家まで来てもらっていろいろしてもらうこともサービスとしてあるかもしれないし、それができない方もいらっしゃるかもしれない。よく勉強した上で、そういった方たちに孫にも絶対北九州がいいんだよと思ってもらえるような町にさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。要望にしておきます。

それと、基本構想の中に、娯楽とかレジャーとかスポーツ、観光も入っていますが、東京とかに行っている若い人たちは何で行ったかというところ、地方よりその辺に触れる機会が非常に多いということが大きいんですよ。だから、そのことをちゃんとうたってくれていますから、北九州もここはもっと磨いて、いいものをどんどんやっていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

最後に、各区のことを書いていますが、何であんなのが入ったのか、いまだによく理解できないんです。区ごとの取組みたいなことを書いていますよね。意見があったら聞かせてください。市長が区を回って皆さんの声を聞いたことが結構入っているんだけど、そもそも各区をどうするか本当に詰められたのかという気がするのが1つ。

これはどうしても言ってくれと言われたので、あえて言いますが、私たち戸畑区は山笠がユネスコ文化遺産なのでうたわれていましたけど、小倉南区の議員から曾根の神幸行事が入っていないと。文政2年に始まって200年以上の歴史を持つ伝統ある祭りで、この祭りは、暴風雨により未曾有の被害を受けた曾根新田の鎮守として綿都美神社を造営し、五穀豊じょう、風鎮汐留祈願の大祭を行ったことが始まりとされていますと、市はしっかり宣伝してくれているんですが、どうもこれが入っていないと。最終的にそうなったのか、ただ忘れてしまったのか。入れてほしいという意見をいただきましたので、何か御意見があれば。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 今回の基本計画の素案の第7章に、各区の御紹介の章を設けさせていただきました。

元気発進！北九州プランにおきましても、各区の魅力づくりという章を1つ設けて、それぞれの区の紹介をしていました。今後、基本構想、基本計画を進めていくに当たっては、それぞれの区が持っているポテンシャルとか観光資源とか産業とか、こういったものを十分発揮していきながらやっていかないといけないということは当然のことです。

で、今回も各区の魅力を紹介するページを設けさせていただいたところでございます。このページの作成に当たりましては、夏に行いました各区のミライ・トークで、それぞれの区がプレゼンテーションで作った資料とか意見とかを踏まえながら、企画課と区で内容については整理したところではあるんですけども、今委員がおっしゃいました行事につきましても、区役所とまた協議して整理させていただきたいと思います。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 岡本委員。

○委員（岡本義之君） 最後に、本会議場で篠原議員もマーケターの話をしていましたが、私もずっと考えていて。森岡毅さんという方がいるんですが、沖縄にテーマパークを造ろうとされたり、USJを立て直した人で、すごいマーケターと言われています。何とこの人は兵庫で育ちましたけど、調べると生まれは北九州市なんですよ。関連があつて。北九州市はこれまでもポテンシャルとか、これだけ力があるとか言ってきたんだけど、それが身になっていない。本当に市場調査とかマーケティングができていいのかなど。森岡毅さんはめちゃくちゃ忙しい人ですけど、すごい分析能力のある方みたいで、丸亀製麺も手打ちしていることだけを表に出して復活させた人なんです。みんなが何を求めているかをすごくシビアに見ていく人で。ちらっと市長が言われた中に、利他という言葉が出てきますよね。彼もそういう思いがあるみたいですよ。人に喜んでもらうためみたいな部分があるようなので、僕は武内市長にぜひ縁をつくってくださいとお願いしています。僕もいろいろ探してみましたが、なかなかそういう縁がなかったんで。私の大学の後輩に今は国会議員をしていますけど、ゴールドマン・サックスの執行役員をしていた人がいまして、聞いたら、ちょうど入れ違いだったらしいんですね。市長は一回会ってみたいと言っていましたから、ぜひいろんなルートを探して、ぜひとも研究していただきたい。以上、要望して終わります。

○委員長（佐藤栄作君） もう12時を過ぎました。ほかに質問のある方はおられますか。

まだたくさん残っておりますので、ここでしばらく休憩としたいと思います。

再開は午後1時といたします。

（休憩・再開）

○委員長（佐藤栄作君） それでは、再開します。

休憩前に引き続き、質問、意見を受けます。成重委員。

○委員（成重正文君） よろしくお願ひします。

基本計画の素案の中で、稼げる町の実現で、人も企業も潜在力を開花できる町ということですが、私は稼げる町と人の増加というのはつながっていると思っています。

武内市長も出られました、11月21日に行われた物流のシンポジウム、北九州市から始まる新しい運び方を開催しますの中で、慶應義塾大学の加藤教授とか、ヤマト運輸の執行役員の鈴木部長とか、NX総合研究所のシニアコンサルタントの峯さんとか、北九大の畔津

准教授とかが出てこられましてパネルディスカッションをやったんです。その中で皆さんが言われていたのが、北九州は全ての物流が九州全体と、それから中国方面からも一番集まるボトルネックなので、未来を考えたときには北九州は絶対チャンスがある町だと言われていました。議会の中でも言ったんですけど、ヤマトホールディングスの部長が、なぜ北九州市を拠点の空港の中に入れたかということ、市の職員の皆さんの情熱に動かされたと言われてたんですよ。これは皆さんの前で言われたことなので間違いのないことでありまして、企業側も市の職員側も、さっき戸町委員も言われていましたけど、この町がよくなればいいことなんで、そこをどう集約していくかということだなと思っていました。

パネルディスカッションの中で言われたのが、積み込む場所の物流拠点化で、私も新門司南と言いましたけど、あそこに新しく自動で船が着くとか、要はトラックステーションじゃないですけど、そこに今度、物流だけじゃなくていろんな、アミューズメントもあるかどうか分かりませんが、トラックを所有する方々や荷主たちが若い感覚で、そこに来たいという新しい拠点をつくるべきじゃないかというのがありました。その中で、トラックドライバーが止まりたい町、ここだったら仕事をしやすい町、RORO船を利用する荷役が特典となる町、物流拠点となってみんなが幸せになる町、物流の価値が高まる町が、若い人が定着するところだと言われてたんですよね。もし門司なら門司で、そこに拠点ができれば、その地域の方がいろいろと携わる。食事を作るとか、動かす方とか、たくさん人が要ると思うんです。人口増につながると思うので、こういう意見も取り込んでいただければと思っています。

あともう一つ、NX総合研究所のシニアコンサルタントの方が、寄ってもらいたい町、福利厚生がよい町、作業がしやすい町で、同じことを言われたんですけど、トラックドライバーが泊まって、ここがいいというところを拠点化してほしいと言われていました。だから、JR貨物が新しく船を造って、今度は貨物を船でも運び始めると言われていましたし、それが北九州に着けばなおさら人も要るし物も動くし、また、3,000メートルの滑走路も着工するというので、北九州は今ちょうど過渡期か、本当に変革のときかなと思ってまして、全てをうまく回し切れればこの町は物すごいことになるんじゃないかと、いろんな方の意見を聞けば聞くほどそう思いました。

この間、新ビジョンの検討会議を私も聞かせていただいたんですけども、津田会頭が稼げる人を育てるところで、教育の部分は大学生に関する記述がほとんどであるが、チャレンジ精神、創造性、実行力を育てることになると、やはり小学生から始めないととても間に合わないと考えられていました。KPIに、夢を持つ小・中学生とあるので、教育の方向性をぜひ打ち出していきたいというのがあったんですよね。小・中学生の教育の方向性は今回どのように入っているのか、お聞かせいただけますか。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 今御紹介がありましたように、検討会議でも構成員の方からそういった御意見がございました。彩りある町の実現のところで、彩りある人を育む、将来の可能性を開く教育環境の充実という主要政策を掲げております。この中には大学生のことも含まれておりますけども、小学生、中学生、高校生、そういった若い頃から、今後大人になってからの挑戦意欲とかを高めていくための環境づくりというのが非常に大事だと思っております。稼げる町のところでは、スタートアップとかそういった起業家精神の育成という教育も掲げております。そういったところと連動しながら進めていきたいと思っております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 成重委員。

○委員（成重正文君） ありがとうございます。

今、小・中学生だけでも7万人、この北九州市にいらっしゃると思うんですね。この目標が2040年であれば、5年ごとに見直しても、その子たちがずっとそのまま引き上がってくるわけです。そしたら、その子たちが北九州はいいねということで、とどまればいいわけだから。小・中学生の教育の中に、ゆめみらいワークもありますけど、地元の企業にはこれだけいいところがある、地元企業は優しいね、勤めやすいねというのが分かれば残っていただけるんじゃないかなと思いました。

もう一つ、物流拠点に戻るんですけど、これは民間になるんですが、働いているドライバーの方々がこの仕事はいいよって言わない限り、若い人は入ってこないと言ったんですね。だから、北九州に拠点があって、別に昼間働かなくて真夜中に働いても、北九州に泊まっているいろんなことができる、24時間動いている町というふうになれば、また変わってくるのかなとか。

すみません、長くなるんですけど、フードバンクの理事長と物流の話をする中で、トラックのドライバーの方は55歳以上の方がほとんどで、若い人がいないんですよ。じゃあ今不登校でひきこもりとかになっている子供たちに、こういう仕事があって、トラックのドライバーだったらほとんど人に会うことがないので、そういう仕事に合う人もいないかと言ったら、そういう話をすると言ったんですよ。だから、そういうところからも見つけていって、要は北九州に住みながら、仕事もできて貧困から抜け出せるというのは連動しているんじゃないかなと思いました。

来年1月の下旬にはできるということなんで、本当に期待しています。今は本当に変わる過渡期じゃないかなと思うんで、頑張ってくださいと思います。私からは以上です。

○委員長（佐藤栄作君） ほかにありませんか。篠原委員。

○委員（篠原研治君） 日本維新の会の篠原です。

まずは、基本構想について質問させてください。

今日もいろいろ意見が出ていましたけども、一步先の価値観というのは、やはり私も何

か違和感があるなど。この価値観というのは誰にとっての価値観なのか、市民の価値観から一步先なのか、北九州市としての価値観なのか、行政としての価値観なのか、何の価値観からの一步先なのかがこの文章をみただけでは分かりにくい。あと、一步先の価値観というと、今持っている価値観を否定されている感じがしますよね。価値観というのは人それぞれが持っているもので、古いからその一步先に行こうっていうのも、前向きでよさそうな言葉でもある気がするんですけど、ただ、価値観というのは人それぞれで、個体の数によって価値観はあっていいんですが、その価値観じゃなくて前に進もうやみたいで、一步先というのはすごく難しいですね。価値観に前も後ろもないような気がして、価値観は価値観なので、価値観の一步先というのが解釈としてすごく難しいなど。人によっては自分の価値観が否定されている気がするんじゃないかなという気がします。

そして、目指す都市像というのがずっと並んでいますけども、これも意見があったように、結局何が言いたいのか、なかなか伝わりにくいんじゃないかなという気がして。新聞のラテ欄というんですか、番組表だったり、クイズとか謎かけとかで文章がぱっと出てきたときに、この文章は違和感があるなどと思ったら、実は最初の1行目を縦読みしたら別の文章になるみたいなことよくあると思うんですが、それに気づくのって、この文章はつながっているようでつながってなさそうだな、別の意味があるのかなと思って縦読みしたら、そういうことかみたいになる文章ってよくあるじゃないですか。そういうのに似ている感じがして。読んでいて何が言いたいのか、どう解釈していいのか分からないというような違和感がある文章になっているなど。ここはもうちょっとはつきりできないのかなと。

質問なんですけども、最後の、さあ愛さずにはいられない未来をっていうところが、僕は全然意味が分からないんですよ。愛さずにはいられない未来を北九州市からと。北九州市から始めようという意味なんでしょうけど、愛さずにはいられない未来って何なのかなと。僕はこれだけは全く意味が分からなくて、そこはどういう意味なのか教えてください。

あと、一步先の価値観というのは否定されている気もするんですけど、価値観というのは何なのか教えてください。質問です。

それともう一つ、稼げる町というのとハイクオリーな町というのもいいと思うんですけども、北九州が抱えている問題として、生活保護だったり非課税世帯が結構多い。低所得の方が結構多く、大体16万世帯ぐらいいると。そういう方たちが北九州には多い中で、この新ビジョンを読んでいったときに、稼げる町というのはいいなと思うんですけど、僕も長い期間全然稼げなくて低所得者だったんで、その感覚で見ると、稼げるとか新しい企業が来るということに自分には関係ないんじゃないか、置いていかれた感じがするんじゃないかと思って。基本計画を見たときに、多様な人材が働くことができる環境の整備と

いうところで、年齢や障害の有無にかかわらず、活躍の場を広げ、経済的な自立を促進するため、デジタル分野、学び直し、リスキリングといろいろ書いてあるんですけど、ここは低所得の人たちが自分たちにも目が向いているのかなって感じる文言かと思うんです。自分たちはまだ稼げていないな、低所得者だなと思っている人たちが、自分たちもこの稼げる町に乗っていけるんだと思えるような文言というのが少ないと思うので、そこにつながるものを増やしてほしいと思っているんですが、その辺の見解を教えてください。

最後に、戸町委員も言われていて、なるほどと思ったことがありまして、何年後には何人になるっていうのをしっかり出してもらわないと投資ができないと思います。認識が間違っていたら申し訳ないんですけども、今、北九州市は130万人ぐらいの人口を支えていけるようなインフラが整っていると聞いたことがあるんですね。間違っていたら訂正していただきたいんですけども、これが本当であれば、財政難で今人口が減少していて、2040年には人口が70万台になっていくとなったときに、このままだと、17年後には130万人分のインフラを78万人ぐらいで維持していかないといけない。ここで人口をどうしていくかという話し合いをしているわけですから、2040年に何人になっているのかで、やはり行政のスリム化だったり、インフラのスリム化を進めていかないといけなくて。だけど、本当に100万人を達成するのであれば、そんなにインフラをスリム化していく必要も、若干はあるかもしれないですけど、維持していったほうが良いというところもあります。人口を何年までに何人にするっていうのは明確に出していかないといけないのかなと思いました。感想です。以上です。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 篠原委員から4点御質問いただきました。

まず、一步先の価値観について、誰の価値観かという話がありました。これは午前中から御説明させていただいておりますが、市民の皆様お一人お一人が持っている価値観と考えているところでございます。一步先の価値観という言い方をすると、今持っている価値観を否定するんじゃないかという御指摘もございました。我々としては、そういった考えはありませんので、この書き方は誤解がないように、どういった表現で訂正できるかというところもありますけども、また最終案に向けて整理をさせていただきたいと思っております。

それと、目指す都市像の説明のことで御質問がございました。最初の説明のときに、我々はここをステートメントと呼んでいるとお話しさせていただきましたけども、このステートメントを検討するに当たりましては、今までの行政計画であれば、まず目指す都市像の行政的な説明をすることが一般的だったと思うんですけども、今回新たなビジョンを検討するに当たりましては、単なる説明というよりも、市民の皆様とか企業とかいろんなステークホルダーと一緒に、将来の目指す都市像に向けて頑張っていきたいということで、お

一人お一人が自分事として読んでいただければと、少し行政文書にならないような形で考えさせていただきました。その検討に当たっては、クリエイティブディレクターの下川さんも交えて、市長の思いもお聞きしながら文章を作ったところでございます。

最後に御指摘がありました、さあ愛さずにはいられない未来を北九州市からにつつましめては、3つの重点戦略とか、一步先の価値観で、我々としては新ビジョンでこういったものを考えているということイメージできるように文章を考えさせていただいております。こういった町を実現することによって市民の皆さんお一人お一人に北九州市を好きになっていただいて、引き続き愛していただく。そういった思いで、最後にこういった文章を掲げさせていただいたところでございます。ただ、分かりにくいという検討会議の意見もありますので、ここにつつましても、また下川ディレクターと協議しながら整理できるところはしていきたいと思っております。

それと3点目の、新ビジョンが低所得世帯の方たちにどこまで響いてくるかというお話がございました。委員がおっしゃられたように、まさに稼げる町のところの稼げる人を育むの項の(4)で書いております、多様な人材が働くことができる環境の整備というところが、我々としては、いろんな技術とか学び直しとかは市がサポートして、こういった方たちも今後さらにステップアップしていきながら所得を上げていただくことを目指して掲げているところでございます。ここの表現につつましても、もう少し分かりやすくしてはどうかという御意見がありましたので、そこも踏まえてまた整理してまいりたいと思っております。

最後の御質問で、やはり何年後に人口がどれぐらいになるかというのを掲げないといけないのではないかという御指摘がございました。これまで我々は、将来人口、何年にどれぐらいになるかというのは、国の機関が出しております推計人口を使ってきたところでございます。現時点での推計人口につつましては、基本計画の最後にデータでつけておりますけれども、新ビジョンの計画期間の2040年では80万7,000人と出ております。ただ、これにつつましては、5年ごとにまた変わっていきますので、ビジョンの中の成果指標としては、5年ごとに出てくる数字を上回っていくことを目指していく。将来推計の人口が出てくるたびに上方修正されていくことを我々としては目指していきたいと考えております。ですから、すみません、先ほどの130万人規模のインフラがあるというのは把握していないところではあるんですが、今時点で、インフラ整備とかで何をよりどころにするかということになりますと、5年ごとに出てくる将来推計の人口を見ていながら、随時見直しをしていくと考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 篠原委員。

○委員（篠原研治君） ありがとうございます。

今回、基本計画の最後に、成果指標が出ているんですが、北橋市政を僕はずっとチェッ

クしていたわけじゃないのであれなんですけども、これに関しては、今まで委員会で目標値みたいなものをしっかり出してくださいと言うことが多かったので、ここでしっかりと出していただいているのはうれしいことだなと感じています。ぜひ頑張ってくださいと思います。

先ほどの、愛さずにはいられない未来を北九州市からについては説明を受けたんですけど、やっぱりよく分からなかったんです。愛さずにはいられない未来を北九州市からというのは端的にどういう意味なんですか。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 先ほどの御説明とかぶるかもしれませんが、市民の皆様お一人お一人が未来にわたって、それぞれの生活に対して愛着を持って愛してもらうことを北九州市から始めてもらいたいということで書いております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 篠原委員。

○委員（篠原研治君） これは言葉の表現なので、難しいところはあるんですけども、市民一人一人が北九州市を愛していくということであれば、そのように書いていただければいいのではないかなと。愛したくなる北九州へみたいな、一人一人が北九州市を愛するみたいにしてもらいと分かりやすいんですけど、愛さずにはいられないって、愛すということを一回否定して、けど、いられないという、すごく分かりにくい表現をされているなど。何でそういう言葉遣いになるんだろうと。

ひとつ聞きたいのは、これはいろんな人たちに伝えないといけない文章でもあると思うんですが、作るときに何を指して作っているのかが気になります。短い文章で北九州市の都市像というのを表さないといけないので、とがったことは言えない、いろんな幅広い人たちが見るので難しい言葉も使えないという中で、簡単な言葉を使いながら、けど、表現は分かりにくくなっているわけですよ。あえて分かりにくくしようとして作っているのか、伝えようとしているのか、どういうことを指してこの都市像をつくっているのか、教えてください。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 最後の文章の、愛さずにはいられない未来を北九州市からをちょっと補足させていただきますと、先ほど説明した内容にはなるんですけども、北九州市民の皆さんお一人お一人の、北九州市に愛着というかシビックプライドの醸成というのはやはり今後のまちづくりを進めていく上で非常に大事になってきますので、そういった思いも込めて書かせていただいたところでございます。

それで、この文章について、どういったことで書かれているのか、あえて分かりにくく書いているのかという御指摘がありました。最初のお答えでも回答させていただきましたけども、今回のこの文章を作るに当たりましては、最初の都市像で掲げております、

つながりと情熱と技術で一步先の価値観を実現するグローバル挑戦都市・北九州市についての考え方をつつらと書くという整理もあるんですけども、なるべく行政的な硬い文章ではなく、やはり北九州市民の皆さんとか、企業の皆さんとか、このビジョンを見られた人たち一人一人がこの町の将来に対して考えていただくきっかけとなる文章を作っていきたいという思いで作らせていただいております。ですから、午前中、戸町委員からも、ポエム的なものではないかというお話もありましたけども、委員がおっしゃるように、皆さんが見られるビジョンになりますので、今後また修正すべきところがあれば下川ディレクターと話しながら、なるべく分かりやすいものにできるかどうか検討させていただきたいと思っております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 篠原委員。

○委員（篠原研治君） ありがとうございます。

そうですね、これは本当にポエムっぽいというのが僕の最初の感想ではあったんですけども、ポエムであったとしても分かりにくいなど。分かりやすくしてくださいというところですかね。言いたいこととか武内市長が掲げていることというのは何となくは分かるんです。何となく分かるからこそ、しっかりと言語化して、そういうことがやりたいと伝えてほしいんです。武内市長が何となくやりたいものを都市像で見たときに、何となくが、より分からなくなるっていうような感覚で僕はいて。愛したくなる北九州へって書いてもらったらそれでいいのに、愛さずにはいられない未来を北九州からって何なんだろうというのが分からないので、そこを伝えられるような言葉にさせていただけたらと思っております。

一回これを読んだ後、閉じて、何て書いてあったかなと思ったら、頭に残らないんですよ。じゃあ覚えられる文章がいいのかといたら、簡単な文章、短い文章になっちゃうから、それがいいとは言えないんですけども、最低限、何を言いたかったか分かるような文章にさせていただきたいということを要望させていただきます。以上です。

○委員長（佐藤栄作君） ほかに。村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君） よろしくお願いたします。

まず、この新ビジョンの素案を出していただき、ありがとうございました。11月22日当日の朝まで資料が上がらないため、本日の審議になりました。11月28日開催の第4回検討会議の議事録、アーカイブ配信、これも今週6日まで上がっていませんでした。しかしながら、既にパブコメは始まっておりまして、市民の方にまず最初にお示しすることが必要です。やっぱり情報提供が遅過ぎるのではないかと思います。議会や市民それぞれが審議するのに、審議に足る十分な情報を早めに提供していただきたいと思っております。

各種会議の議事録作成でありますけど、これは2,500万円で委託したコンサル会社のコンサル業務だったかと思うんですけども、そこをまず確認させてください。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 各会議の議事録につきましては、支援委託業務の中に入っておりますので、業者にさせております。出てきた議事録については、当然、我々が中身等をチェックして、なおかつ、この検討会議につきましては、ホームページ等で公開することになりますので、各構成員の皆様にもきちんと発言内容の確認をさせていただく手続もごさいます。そういった構成員とのやり取りやホームページ等のアップに少し時間がかかっております。以上でごさいます。

○委員長（佐藤栄作君） 村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君） 委託業務ではありますが、コンサル業務に非はなかったということで理解はしましたけれども、一方で、こういうことが続いていますと、このビジョンのスケジュール感があまりにも早かったのではないかという疑念にもつながってまいります。パブコメをするんだったら、最低でも第4回の検討会議は12月前に終了しておりますので、市民にお示しすることが大切だと思います。スケジュールありきで職員の皆さんが追われているのではないかと、そういうことも心配になりますので、スケジュールはしっかりお示しいただき、無理だったら無理と私たちにも伝えていただきたいと思います。

まず初めに、新ビジョンの目指す都市像についてお伺いをいたします。

本市には様々な方がおられます。子供から高齢者、文章読解力もそれぞれです。それは、一番市民と接する市職員の皆様が分かっていることではないかと思えます。翻訳や説明がないと分かりにくい、こういうものは行政のプランにふさわしくなく、市民との共有という面で、理解も進まないのではないかと思えます。

この新ビジョンは、北九州の最上位計画で、2040年の未来に向けての羅針盤、設計図でありますので、多くの方が理解できるようなものでないといけないと思っております。具体的な分かりやすさ、表現、書きぶりは工夫をしていただきたいと思います。

この目指す都市像を見ますと、オリジナル性を出そうと懸命に努力された結果、結局分かりにくくなったと思えます。クリエイティブディレクターの方も相当苦心はされたと思えますけれども、これはファッション雑誌でもないですし、ユーチューブ番組とかイメージ的なものでもないので、明確にしていきたいと思いますと思うんですね。

ちょっと例を挙げます。例えば神戸市のビジョンを挙げますと、神戸市が目指す都市像、世界と触れ合う市民創造都市と、一言で明確なんですね。その下に、北九州市の稼げる町、安らぐ町、彩りある町と同じように柱があるんですが、5つの柱が具体的に明確に示されています。神戸市の場合は、共に築く人権尊重の町、福祉の心が通う生活充実の町、魅力が息づく快適環境の町、国際性にあふれる文化交流の町、次世代を支える経済躍動の町、これくらい分かりやすくないと伝わらないのではないかと思えます。

書き方としては、今の書き方で分かりやすいと思っていらいっしょいまいしょうか。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 目指す都市像の説明の表現につきましては、先ほどからも御説明しておりますように、必要なところはまた修正等の検討をしていきたいと思っております。

それで、神戸市の例で、我々でいう3つの重点戦略の柱のところを御紹介いただきましたけども、今回の3つの重点戦略につきましては、まずはフレーズということで書かせていただいております。こういった中身かは、説明の中できちんと書いているところがございます。あと、基本構想では3つの重点戦略を稼げる町、彩りある町、安らぐ町の実現と書いておりますけども、基本計画の第2章から第3章、第4章でそれぞれの3つの重点戦略の説明を書いているところでは、サブタイトルとして、例えば稼げる町の実現でしたら、人も企業も潜在力を開花できる町とか、あと、彩りある町の実現でありましたら、輝く個性と楽しさがあふれる町ということで、おおむね5年ごとにこの基本計画は見直していくこととなりますので、サブタイトルはまた変わってくる可能性はありますけども、こういった町を実現していくんだということが市民の皆さんに分かりやすいようにタイトルをつけさせていただいているところがございます。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君） 大抵の市民が、そういった重点戦略の中の部分まで読まないと思います。稼げる町、彩りある町、安らぐ町、これ自体にきちんと分かりやすさを込めなくては、なかなか伝わりにくいのではないかと思います。あと、目指す都市像のキャッチコピー、つながりと情熱と技術で一步先の価値観を実現するグローバル挑戦都市・北九州市というのも、私の記憶力が悪いのかもしれませんが、なかなか覚えにくいと思います。

次に、稼げる町という言葉への違和感を私も本会議で表明いたしました。今回、戸町委員も、稼げる町という表現の在り方について御意見をお示しになりました。行政用語とは非常に離れたようなところに違和感があります。ともすれば、さもない拝金主義であるかのようなイメージを持たれるという方もいらっしゃると思います。特に、稼げる町という表現もそうなんですけれども、この稼げる町を最初に掲げることは戦略としていいのかどうか、順番的なものも考えていただきたいんですが、順番としては、この稼げる町が最初に来ないと何か不都合があるのでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 3つの重点戦略の連関による成長と幸福の好循環ということで、基本構想の第2章の1番目と2番目で少し詳しく書いてはおりますけども、北九州市の今の経済状況とかそういったところを見る限り、まず一番に課題として取り組んでいかないといけないのは経済成長ですから、この中で、稼げる町の実現を起点として、彩りある町の実現、安らぐ町の実現と、成長と幸福の好循環を回していきながら目指す都市像を実現していくと基本構想では書いているところがございます。

稼げる町の実現のところはクローズアップされがちなんですけども、我々としましては、

彩りある町の実現、安らぐ町の実現の3つともどれも大事なものであると思っております。ただ、まずは稼げる町の実現を起点としてやっていながら、成長と幸福の好循環を回していくということを我々としては考えております。基本構想の安らぐ町の実現の説明に書いておりますけども、やはり誰もが日々の暮らしに安心と安らぎを感じられる町というのが重要だと考えておりますので、こうした考えの中で基本構想の重点戦略を整理しているところでございます。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君） 安らぐ町という、市民生活が大切だということを言っていただきました。

今のところ、武内市長の言葉からは、稼げる町、稼げる町という言葉は何度も聞くのですが、今課長がおっしゃったような御説明はあまりないように思います。稼げる町という表現が最初に来るのが本当に北九州市のプランとしてふさわしいのか。稼げる町という表現も、例えば経済成長だとかそういう言葉でもいいですし、経済躍進だとか経済躍動だとかでもいいと思います。稼げるという言葉のインパクトが強いのはいいんですけども、経済効果ばかりに非常に重点を置いて、2番目、3番目の彩りのある町の内容だとか安らぐ町の内容だとか、大切に多様な価値観や声なき人の声、人々の生活が見過ごされてしまうような、稼げる町が全てに覆いかぶさってしまっているように思います。稼ぐことこそ大事で、稼ぐことこそ目的、稼ぐことこそ正義という誤解を与えないようにしていただきたいと思います。

次に、本会議でお伺いをいたしました住民自治について質問します。私は本会議で第2質問ができなかったので、質問したいと思います。

素案に、自治基本条例の趣旨が十分に反映そして明記されているでしょうかということに対し、武内市長はいろいろお答えいただいたんですけども、結局、今までやったことはお答えされているんですが、素案に明記されているかどうかについては本会議でお答えいただいております。このことについて、自治基本条例の考えが明記されているかどうか、お答えください。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 本会議でも市長から御答弁させていただきましたけども、今回の新たなビジョンの策定に当たりましては、自治基本条例で掲げられております考え方、そういったものを当然踏まえながら策定しているところでございます。具体的に、本会議の第1答弁で市長からも答弁させていただきましたけども、自治基本条例の第4条で規定されております、自分たちの町のことは自分たちで考え決定していくという基本理念をしっかりと踏まえながら、これまでの策定の中で、市民意見聴取も様々なところでやってきたところでございます。

ですから、委員お尋ねの明記されているかどうかですが、自治基本条例の中には、趣旨を踏まえながら各計画をつくることはうたわれておりますけれども、必ず計画の中に自治基本条例のことを明記するというところまでは書かれておりません。そこは所管の総務局総務課に確認しまして、きちんと趣旨に基づいて計画を策定することを踏まえていけばいいというお話をいただいておりますので、我々としてはそういう整理で考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 村上さとし委員。

○委員（村上さとし君） ぜひともきちんと書いていただきたいと思います。住民自治のまちづくり、この素案の中の一步先の価値観の中にもありますけれども、地域が直面する課題を地域の力で解決し、とかというのは自治基本条例の在り方の一つかなと思いますが、ほかのところにはあまりそういったことが示されていません。

文言化することは非常に大切なことでもあります。市民意思を踏まえた市政運営だとか市民参画だとか、人が大切にされ人権が守られる地域とか、住民福祉の増進だとか、市民の日常や日々の生活をしっかり底支えしていく自治体だとか、そういったことは明確に市民にも伝えていただきたいと思います。思っても伝わらない。やっぱりこれは計画ですから、明記していただきたいと思います。

次に行きます。素案に分野別施策と分野別施策体系図が示されていないということを私は言ったんですけれども、それは各局の計画でやっていくとお答えいただきました。私が質問をした意図なんですけれども、この新ビジョンが最上位計画で、その下に様々な計画がありますよね。細かなことじゃなくて、そういった自治の体系をお示しいただきたかったんです。前の元気発進！北九州プランの中では、ざっくりと示されていたと思います。市民に分かりやすいビジョンというのが大切だと思いますので、この基本計画の位置づけが行政の在り方の中の一体どこにあるのかを図的に示していただきたいと思います。いかがでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 基本計画の構成につきましては、基本計画の最初にある計画の策定に当たってというところで示させていただいているところでございます。もっと示すべきではないかというお話だと思うんですけれども、本会議の中でも市長から御答弁がありました。御指摘のとおり、今の元気発進！北九州プランにつきましては、主要政策の下に主要施策が掲げられておりました。ただ、今回の新ビジョンをつくるに当たりましては、技術革新とか社会経済環境が大きくスピード感を持って変わっていく、市民ニーズもいろいろ変わってくる中で、柔軟かつ迅速に対応するために、施策とか事業につきましては、基本計画で掲げた主要政策の方針に基づいたところになりますけれども、毎年度毎年度新たな視点を織り込みながらお示ししていくことを考えております。

それで、各分野別計画と書いておりますけども、その計画はどういったものがあるかという御質問でよろしいですか。

○委員長（佐藤栄作君） 村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君） はい。項目出ししていただければ、より分かりやすいのではないかという趣旨です。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 整理としましては、元気発進！北九州プランは58の分野別計画がぶら下がっております。ただ、これにつきましては我々も今まできちんと整理していなかったところもあったんですけども、各部局が計画をつくる時に、元気発進！北九州プランの分野別計画に位置づけるかどうかという整理をずっとしてきたところでした。大きい計画も小さい計画も、様々なレベル感のものがありましたので、今回新たなビジョンができた後には、3つの重点戦略にひもづく分野別計画として整理していきたいと思っております。ただ、現在も産業経済局で成長戦略の新たな計画がつくられたり、保健福祉局では高齢者の計画、教育委員会では来年度教育プランの見直しが行われたりと、新たな計画の策定や改定の動きが出てくると思います。どういった計画がこのビジョンにぶら下がってくるかは変わってくると思いますので、ここは随時ホームページとかで示していくとか、どういったやり方があるかはビジョンができた後にまた検討していきたいと思っております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君） ホームページなどでお示しいただけるということでありました。

市民の方とお話ししていてよく言われるのが、この基本計画と基本構想の位置づけは何となく分かった、最上位だということもお伝えしていますし、羅針盤であり設計図だということとはよく分かるんですが、じゃあその下にどんな計画があるのかっていうことがなかなか理解していただけないということがあります。北九州市には、子育て政策など、生まれる前からお亡くなりになったときまで幅広いいろんな計画があります。教育もそうですし介護もそうですし、いろんな計画がぶら下がっていると思います。体系的にお示しいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

次に、一步先の価値観であります。

市民一人一人の多様性を大事にするということがいろいろと示されながら、こんな価値観がいいんじゃないかというふうに3つ限定して掲げているところが、何となく分かりにくさと呼んでいるのではないかと思います。あと、非常に気になったのが、能力開花とか持続可能とかはいいんですが、利他の精神などと自治体が精神論を持ち出していると、何か違和感があるんですけども、この辺はいかがでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 3つ掲げております価値観につきましては、これを押しつけるとかそういうわけではなくて、午前中、企画調整局長からも答弁がありましたように、これまでの北九州市の歩みとか北九州市民のつながりとか情熱とかを踏まえながら、我々として今こういったことが考えられるのではないかということでお示しさせていただいているところです。読んだ市民の皆様には誤解を与えるということであれば、ここにつきましてもまた、どういった表現があるか整理させていただきたいと思っております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君） 繰り返しになりますが、多様性と言いながら価値観は限定されたものが示されるという、相反するような全体的な書きぶりが混乱のもとになっているのではないかと思いますので、整理をしていただければと思っております。

次に、13の指標についてお伺いをいたします。

町の成長と市民の幸福の好循環を実現するために、14ページに13の指標がございます。市内総生産額4兆円を掲げられています。次に、唐突に女性の就業率が挙がっているんですけども、計画の中で、女性活躍だとか女性の就業率を上げるとかは、特になかったと思うんですが、この女性の就業率を挙げたのは何か意味があるのでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 女性の就業率を指標として挙げたところでございますけども、稼げる町の実現の戦略の中で、性別にかかわらないキャリア形成の支援、あと、多様な人材が働くことができる環境の整備を主要な政策として掲げているところでございます。新ビジョンの検討会議の中でも、データ等をお示ししながら議論になったところであるんですが、女性が結婚とか出産された後も引き続きお仕事をされながらキャリア形成していくことが今後、北九州市が目指す経済成長の上でやはり重要な視点である中で、女性の就業率を見たときに全国よりも低いところがありますので、少し改善するように取り組んでいくべきだという御意見がございました。そういったところで指標として掲げさせていただいたところでございます。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君） 成果指標でありますので、何の政策に対しての指標であり目標値であるかという、何に対してのというところもぜひお示しいただきたいと思っております。

今、女性の就業率というのは現状、ある課題があり、だからこの指標を出したということ、御説明いただいて初めて理解できました。市民の方もいきなりこれを見て御理解いただくのは難しいと思っておりますので、それもぜひ御説明に入れていただきたいと思っております。

市内総生産4兆円とございますが、稼げる町の主語を、先ほど課長は市内企業と一人一人の市民ともおっしゃられました。それでありましたら、市内総生産額はもとより、市民雇用者における1人当たりの報酬というのも指標にすべきではないかと思っておりますが、いか

がでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 委員がおっしゃいますように、企業だけでなく、働かされている方一人一人の所得を上げていくことは重要だと思っております。素案につきましては13の成果指標を掲げておりますけども、ただし書でも書いておりますが、各分野別計画とかは今まだ議論が進んでいるところもございますので、そうした議論を踏まえながら、成果指標は追加などを今検討しているところでございます。そうした中で、1人当たりの雇用者報酬というのは重要な成果指標になるのではないかと我々も考えておりますので、そこはまた関係局と整理しながら検討してまいりたいと思います。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君） 何よりも武内市長が公約で、市民雇用者における1人当たりの報酬が下降傾向にあるということを課題としてお示しになっているんですね。であるならば、やはりこれは指標として設定すべきだと思いますので、よろしく願いいたします。

次に、合計特殊出生率の目標値1.8について、この計算根拠を教えてください。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 この合計特殊出生率1.8の目標値につきましては、国が希望の合計特殊出生率として掲げております。まずはその達成を目指すということで、今回、目標として掲げさせていただきました。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君） 国の目標値の達成ということですが、本市はそこを上回ってやるとかという意欲的な目標は立てないのでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 現状値のところにも書いておりますけども、2022年は1.46で、これまでも、まち・ひと・しごと創生総合戦略の中で合計特殊出生率の目標は掲げておりましたが、そのときの目標の考え方は、政令指定都市の中で上位を目指すということを掲げておりました。北九州市は政令市の中でも合計特殊出生率は高いほうの都市になっておりますが、その中でも、この1.46の現状値を1.8に上げるというのは非常に大きなハードルがあると認識しております。子ども家庭局だけの取組ではなくて、住宅とか教育とか各局の様々な取組を総合的にやっていく中で、これでも達成できるかどうかという非常に高い数値目標であります。我々としては、まずは国が掲げている希望の目標を掲げて、実現に向けて全庁的に取り組んでいこうということで今回掲げさせていただいたところでございます。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君） 国の目標も実現困難レベルの高い目標なので、それに合わせたと

いうことで理解をいたしました。

この13の指標に関連して質問しますが、今、市政運営に関して、自治基本条例の中の第5章第1節、市政運営の基本原則、計画的な行政運営というページがございます。その第15条の3、市長などは、基本構想等及び各行政分野における基本的な計画を策定し及び実施するに当たっては、計画の目標及び期間を明示するとともに、計画に係る進行の状況を適切に管理するとあります。

今、この13の指標が目標であると認識をしておりますが、2040年の目標を最終的に立てておかないと、計画に係る進行の状況を全体的に適切に管理できないのではないかと考えますが、いかがでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 今委員から御紹介がありました自治基本条例の第15条の3に、計画の目標及び期間を明示するとともにと書かれております。ここの目標は、今回のビジョンで掲げた目指す都市像といった目標であるのか、その数値目標を言っているのかは、また自治基本条例の所管のところにも確認させていただきます。話を戻らせていただくと、2040年の計画期間であれば、2040年にどれぐらい達成するかの目標を掲げるべきだというお話がありましたけども、今回の13の成果指標を設定するに当たりましては、市内GDPとか商業地地価とかにつきましては、社会経済状況など様々な要因で変わってくるところもございますので、17年先の2040年の目標設定というのはなかなか難しいところがございます。5年ごととか、GDPとかは10年後の数値を掲げておりますけども、まずはそういったところの達成状況を見ていながら、2040年の最終的な目標に向かって進めてまいりたいと考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君） それでは、この条例上、計画の目標及び期間を明示するということに対して、期間は2040年と明示してありますが、計画に係る進行の状況を適切に管理するために、2040年の目標は必ずしも立てなくてもいいという解釈に条例上はなるんですか。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 ここにつきましては、自治基本条例の所管の総務局総務課の見解も確認はさせていただきますと思いますけども、今のところの我々の考え方としましては、そういった縛りはないのではないかと考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君） 条例とそごがないように、きちんと確認した上で素案を完成していただきたいと思っております。

最後になります。市民参加に関しては、新ビジョンについて、私もいろいろな方のお声を聞くんですが、実は結構まだ認知度が低いと感じております。今度は12月16、17日に

500人規模でまた説明会が開かれますけれども、それに合わせてぜひ広報をしていただきたいと思っております。

自治基本条例は、市民参加が一番であります。自立した地域社会こそ持続可能な、持続可能なというのも3本の柱にありましたよね、持続可能な地域社会をつくっていきましょ、北九州の存続可能性を高めるものであると思っております。市民に、町をつくる当事者意識をつくってもらって、市も育てていくということが大切だと思っております。

稼げる町とか選ばれる町というのが何度も出てくるんですが、選ばれる町というと、住民の多くが居住地を選択できますから、選んでもらえなかったら人は外に出ていってしまいます。消費者として自治体を商品選択するような、自治体の提供する公共サービスについても消費者感覚で、市民にあら水巻町のほうがいいわねとか、あら福岡市のほうがいいわねという感覚になってもらっては、地方自治の精神とはかけ離れてしまうと思っております。

人口減少の中、住民の地域へのコミットメントは非常に大切です。いかに消費者ではない、自治体の主体者として動く人をつくっていくことにまず力を入れていただきたいと思っております。町に不満があって、条件のよい町へ転出していく消費者を育てるのではなく、主体者として市政を自分たちでつくっていき、そういった市民を育てて応援するような、そういった素案であってほしいと思っております。以上、意見として述べて、私の質問を終わります。

○委員長（佐藤栄作君） ほかに。井上委員。

○委員（井上純子君） 私から、今回、基本構想、基本計画の初めての素案が出まして、まず評価する点から申し上げていきたいと思っております。

今回の素案発表につきまして、16年ぶりの新市長ということで、大きな変化があるのか、どういった町になるのかと、大きな期待と不安が同時に生まれていた時期であったと思っております。また、議員をはじめ多くの市民が、このビジョンが示されることを待ち望んでいたと感じております。

そのため、私としても、武内市長就任後すぐ、3月の定例会におきまして、基本構想、基本計画の早期策定を要望いたしました。結果として、武内市長の強い思いもありまして、策定期間も今までの市政であると1年10か月かかっているところを10か月で実現しようと、今回の素案発表に覚悟が表れていると感じております。また、先日のこの素案の記者発表において、やっとなと申しますか、武内市長が自らの言葉でしっかり話される場が今までよりも強く感じまして、市民も少し安心したのではないかなと思っております。

次に、内容としましても、停滞から成長に向けた前進を感じております。それは、市民の幸福度、生活の満足度の重要性が語られながらも、まずそのために町が成長する、稼げる町と、財源を生み出しながら好循環が示されております。

家計や企業経営でも当たり前ですが、まずは稼いで、経済成長があつて、個人の所得も

向上します。生活が充実する好循環となると思っています。そして、税収が上がれば、福祉や子育てに還元できる。これらの当たり前で現実的な成長と幸福の好循環をつくることは、実現性のある方針であると評価しています。

またさらに、基本計画におきましては、今までの市政では人口減少を課題に挙げるだけでありましたが、今回はあえて増加を目指すことを示し、まち・ひと・しごと創生総合戦略も包含されています。また、今までは、成果指標が基本計画には全く載せられていませんでしたが、今回13の指標も掲げられています。ほかの関連の計画には載せていても連動しづらい市政運営であったからこそ、重要なことを基本計画に載せるということに意味があると思っています。市役所全体が成果指標を目指し、事業展開されることを期待しています。

加えて、今回、市外転出者アンケートの実施もありがとうございます。これは以前、転入者アンケートしかしない状況に問題提起し、転出者向けも要望したこともありましたので、実現に感謝しております。また、ぜひここから得られる情報を活用し、定期的な実施もお願いしたいと思っています。

続きまして、基本計画でもっと磨き上げてほしいという視点で質問させていただきます。

まず、この基本計画の位置づけが曖昧であるため確認したいんですけれども、私としては、市政運営を担う最上位計画であるため、行政組織全体の施策をリードしていく行政計画であるという認識ではあるんですが、冒頭の目指すべき都市像の導入部分に変なメッセージを入れたことで、この構想、計画が市民へのメッセージなのか、行政側の計画なのか、どちらに寄せたいのか、よく分からないので教えてください。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 今回の新たなビジョンにつきましては、行政計画の最上位の計画と位置づけられております。ただ、行政計画として進めていくに当たりましては、市民の皆様や企業の皆様などいろんなステークホルダーの皆様と一緒に取り組んでいかないといけないという思いもありまして、目指す都市像とかを掲げさせていただいたところでございます。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 井上委員。

○委員（井上純子君） ありがとうございます。

自治基本条例でも、市民が参画してつくるということには触れられているんですけれども、政令市というのは事業数も多いわけです。計画というのは行政組織全体の施策を引っ張っていくためにも、やはり行政が見て分かる、共通認識できる、機動性のある計画でないといけないと思います。ただ、つくる過程は市民が参画しなければいけないということで、例えばミライ・トークもそうですし、出来上がったときには市民に分かりやすい広報物をまた別に作ればいいと私は思っていますので、そういった工夫をして、今はまず行政

がしっかりと機能していく計画をつくっていただきたいということを要望します。

続きまして、基本構想、基本計画を主軸に各分野別計画がひもづけられていくことになると思うんですけれども、今回、各区のまちづくりの方向性まで基本計画で示されているんですが、内容としては抽象的なものであります。まちづくりについては、都市計画マスタープラン、また、まちづくりビジョン2050、こういった計画が既にあるわけなんですけれども、この計画との連動はどのように考えられているのか、教えてください。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 先ほども御答弁させていただきましたけれども、この第7章につきましては、今後、北九州市がこの新ビジョンの下、まちづくりを進めていくに当たって、7つの個性ということで書いております。7区にある様々な産業とか観光とか歴史とか伝統文化とか自然とか、そういったところを今後もさらに発揮しながらやっていくということで、各区が持っているポテンシャルの御紹介として掲げております。

まちづくりの方向性ということで、少し抽象的なところもありますけれども、それぞれの区が今後どういった町を目指していくのかにつきましては、委員が今おっしゃられたように、建築都市局の都市計画マスタープランとか、あと2050のビジョンとかもございまして、そういったところとも整合性を取りながら、各区のまちづくりは進められていくと思いますし、あと、ハード以外のソフトの部分とかでも、それぞれの計画と一緒に連動していくことになると思っております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 井上委員。

○委員（井上純子君） 他局が既につくっている計画よりも、この計画は上位計画であるはずなんです。となれば、ただのパッチワークではなくて、連動していただきたいので、今回つくられていくビジョンをしっかりと反映させていってほしいと思います。

ただ、今回の各区の目指すべき方向性というのは、恐らく各区民が見てもよく分からないような内容ですので、町の方向性を具体的に基本計画に載せないのであれば、無理に載せずに、都市計画マスタープランとまちづくりビジョン2050はどうしていくか、ここの改定も企画調整局がリードして進めていただきたいということを要望します。

続きまして、北極星のことがどうしても気になっているので教えていただきたいんですけれども、今回素案が出まして、素案における北極星はどこになるのか、教えていただけないでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 年度当初に市長が予算の発表の際に使われた北極星についてお話があったと思うんですけれども、我々の認識としましては、今回の新ビジョンで掲げた目指す都市像が、行政だけでなく市民や企業の皆様と共有すべき目指す都市像にしていきたいということなので、これが我々の中では市長が当時言われていた北極星ということになるのではないかと

と認識しております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）井上委員。

○委員（井上純子君）目指す都市像ということは、基本構想の1ページ目の、愛さずにはいられない未来を、北九州市から北極星ということによろしいでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）企画課長。

○企画課長 つながりと情熱と技術で一步先の価値観を実現するグローバル挑戦都市・北九州市という、この目指す都市像が当たるのではないかと考えております。その下の説明書きのところについては、あくまでも今言ったことの説明になると思います。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）井上委員。

○委員（井上純子君）ちなみに決め方も教えていただきたいんですけども、北極星は国民皆が同じゴールをとという意味だったと思うんですね。でいうと、北極星があつて、これらの都市像があり、計画があり、各施策へと連動して行ってほしいと思うわけなんですけれども、そういう北極星があつてから決めていく計画なのか、それとも、これらのビジョンができて、最終的にクリスマスツリーみたいに星を飾ったのか、どちらでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）企画課長。

○企画課長 北極星がどういった整理になるのかですけども、先ほども申しましたように、我々としては、この新たなビジョンで掲げた目指す都市像が、市民の皆様や行政、企業とか、北九州市全体で共有して目指していきたい道筋と認識しております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）井上委員。

○委員（井上純子君）ありがとうございます。

やはりこの1ページ目はメッセージでもあり、共有すべき情報だからこそ、メッセージ調の分かりやすい表現にしようと努力した結果がこれであろうと理解しました。であれば、ここはほかの委員からもいろいろ指摘があるように、もっとシンプルで、本当に北極星だなと思えるように検討いただきたいということを要望します。

続きまして、村上さとし委員からも質問があった部分の関連ですけども、この基本計画の成果指標の中に、女性の就業率、25歳から44歳の就業率、今75.5%をこの5年で82%に上げる。まさに出産、子育てで落ち込む、いわゆるM字カーブの年代だと認識しているんですが、そしてさらに、出産する女性が増え、産む人数も増えることで数値が増加していく合計特殊出生率1.46は政令市トップクラスではあったんですけども、さらにこれを5年で1.8%に上げるということです。私としては、働く、出産、子育てをどちらも経験してきた経験があるからこそ、同年代でもこの選択肢をどちらも取っていないケースも多いなと思っていて、その現実を知っているからこそ、選択できる今の世の中で、皆がこ

の選択肢を取るか、数値設定で両方高めるとするのは現実的ではないのではないかと感じるんですが、女性にもっと働け、もっと産んでくれと、これをどうやって解決していくのか。簡単に言うと、産めそうな女性を移住させて、産まない女性を市外へ出す、こういったことがなければ、短期間で変わるなんて難しいとまで考えるわけなんです。

この指標の実現性について、両方実現できている自治体があるのか、もし政令市であれば教えてください。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 最後の御質問の、両方達成できている都市があるかどうかというのは、すみません、そこまで把握はしておりません。今回この合計特殊出生率と女性の就業率の2つを掲げたところですが、女性の就業率を掲げた理由としましては、先ほど村上委員のところで御説明をさせていただきましたけども、稼げる町の実現の、稼げる人を育むのところで、性別にかかわらないキャリア形成の支援ということで、ここは当然、その人その人が希望されるライフプランがありますので、強制する話ではありませんが、仕事をされながら子供も産み育てたいといった場合の環境整備は行政が後押ししながらも、企業の環境整備も重要になってきます。7月にお示ししたデータの中にもたしか入っていたんじゃないかと思うんですが、女性自身の働く意欲というのがまだ北九州市は他都市に比べて低いところもございます。働かなくていいという方はいいんですけども、働く意欲が少しでもある方については、就労の促進というところでサポートしていきたいと考えております。

特に、女性の就業率についても、この82%というのはかなり高い数字になってくると思います。ただ、5年後にこの1.8と82%を必ず達成できるのかということになりますと、正直なかなか難しい数字であるかもしれませんが、ここに向かって全庁的に取り組んでまいりたいと思っております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 井上委員。

○委員（井上純子君） ありがとうございます。両方それぞれ目指していくことはすばらしいんですけども、両方実現できるというのはどうしても現実的ではないのではないかと、思って質問させてもらいました。

これは提案であり要望なんですけれども、合計特殊出生率を求めていくのはどうなのかなと以前から思っていて、行政としては、産む人を増やす、産む率を増やすことではなく、人口マネジメントだと考えると、やはり社会動態、人口の総数を見ていくのであれば、社会動態数に連動する出生数のほうが適切ではないかと思うわけです。実際、隣の福岡市は合計特殊出生率は低いんですけども、北九州市よりも出生数は2倍あるんですね。

でいうと、行政にはどちらが必要なのかということなんですけれども、出生数は検討されなかったんでしょうか、教えてください。

○委員長（佐藤栄作君）企画課長。

○企画課長 この指標を掲げるに当たっては、子ども家庭局とかと協議しながら詰めてきたところでございます。委員がおっしゃられますように、出生数のほうがストレートに分かる数字であると我々も分かってはいるんですけども、やはり子育て環境の充実というところで、希望される方が何人子供を産み育てたかという指標に、この合計特殊出生率がなってくると思いますので、これまで使ってきたところでございます。

ですから、今後も子育て環境とか教育環境とか様々な子供を産み育てる環境整備をしていく中で、引き続きこの合計特殊出生率を使っていきたいと考えておりますし、あと、社会動態をプラス1,000人と掲げており、特に今マイナス幅が大きい若い世代をターゲットに増やしていくことを考えております。そうした若い世代が定着したり、外から移住したりしてどれぐらい増えてくるかということと、合計特殊出生率と掛け合わせたところで、また出生数とかも変わってくるのではないかと考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）井上委員。

○委員（井上純子君）ありがとうございます。

今、20代、30代の若い世代を定着させようという必要性は十分理解するんですけども、ただ、結婚するとも出産するとも限らないこと、人口を増やそうといたって産まないかもしれないことを考えると、やはり合計特殊出生率はなかなかハンドリングできない数値なので、かなり難しいなど。出生数を上げることも私はほとんど難しいと思っているんですね。今からどんどん人口が減ってくるんだから、減ることは仕方なくて。となると、もうちょっと実現性のある数値でもよかったのではないかとすることは指摘させていただきますけれども、これを実現できる施策を子ども家庭局と共にどうつくっていくのか、これは期待していきたいと思います。ありがとうございます。

最後に、これは要望であります。基本計画の指標についてです。

大きな基本計画というのは市役所全体をリードしていくものであると考えています。ですから、機動性のある行政計画であってほしいからこそ、指標をもっと増やしていただきたいと思います。今まではゼロだったことを考えると、13載せたことはすばらしい前進であるとは認識するんですけども、隣で成長し続ける福岡市は、基本計画に100近い件数の成果指標を掲げているわけなんですね。例えば今、北九州市が基本計画素案をつくられていますけれど、それぞれの章の1-1、1-2とか、それぞれの分野に全部連動した数値を載せているんですよ。それはどういう意味があるかということ、計画の言葉を羅列しても、数値を求めなければ、私は計画にあまり意味がないと思っているんですよ。だからこそ、計画にいろいろな方向性を書くのであれば、それに連動する指標をできる限り基本計画に載せてはいかかかなと思っているところで、そういった観点から要望させていただきます。

基本計画の文章、文言から抽出したいと思う指標なんですけれども、例えばまちづくり

においても、ウォーカーブルというのであれば、まちづくりビジョン2050に載せるか分からないですけど、歩行者の通行量を取っていくとか、都市の魅力発信というのであれば、定期的なアンケートによる認知度調査とか、あと、デジタルで利便性を高めるというんだったら、区役所手続の満足度調査とか、あと、グローバル人材、理工系教育というのであれば、育成人数とか誘致する学校の数とか、そして、質の高い教育なら、子供の学力。あと、今、夢を持っている割合を掲げているんですけども、行政がすべきことは夢を持たせることではなく、夢や目標をかなえられる環境づくりではないかと考えています。ここも具体的な指標であってほしいということを要望します。

また、災害に強いコンパクトシティの形成と書かれていますけれども、その状況把握をどのように確認していくのか、これも指標をいただきたいところです。文章に載せるだけで終わってほしいとは思いません。

また、地域医療体制、保健衛生管理体制についても拡充と書かれていますけれども、これは武内市長が今後力を入れる政策であるはずだと認識しています。今、日本全体の医療費が増大し多死社会を迎える中で、地域医療の重要性がますます高まっていくと思います。これはどういった施策でどういった指標を示すのか、ぜひこれも具体的な成果指標をいただきたいなと思います。

さらに、人口増として、20代、30代の若い世代の定着を目指すと書いているのであれば、やはり成果指標にこの20代、30代の定着率も挙げてほしいなと思います。

あと最後に、村上幸一委員からも御指摘、提案があったので、これはいいなと思ったんですけども、稼げる町というなら、やはりお金を落とすということが私も改めて大切だなと思います。それであれば、落としたくなる新規出店者数とか企業誘致を目指すように、そういったところの具体的な指標も検討いただきたいと思います。

基本計画に13の指標を掲げたことは前進なんですけれども、13の指標を見ると、ほとんどが今まで出したことがある数値の種類で、既に他局が出せる数値ではなく、目指す都市像の実現に向けては、今までの指標の取り方だと実現ができませんよ。指標の取り方を変えないと。実行力を伴わないと意味がなくなってしまうので、指標を出すとなると、企画調整局や市長の思いだけでは簡単には動かなくて、もうちょっと踏み込まないと、他局は数字を出す努力もしないわけですよ。武内市長がE B P Mを掲げられているように、今の指標がどうか、政策等の効果がどうかというのを定期的に測っていくためには、この13の指標で満足するのではなく、これをきっかけに、今まで取らなかったアンケートを定期的に実施したり、今まで取ったことがない数値を増やしていただく、これは要望したいと思います。

以上が要望なんですけれども、来週末に市民向けのミライ・トークが実施されると思います。ほかの委員が言うように、新ビジョンにおいてはまだまだ認知度が低いと思います。

今までのミライ・トークは行っても大して市長の話がなくて、あまりお勧めできる内容ではなかったんですけれども、今回は市長のビジョンの説明があるということで期待していますので、これも市民に伝えていきたい、私も周知に努力していきたいと思っております。以上で終わります。

○委員長（佐藤栄作君） ほかに。三宅委員。

○委員（三宅まゆみ君） お疲れだと思いますけれど、引き続き、よろしくをお願いします。

まず、全体的な感想としては、他の委員の方もおっしゃったように、ちょっとふわっとして、具体的に分かりづらいと思っています。それと、全体的に中間層以上の方の計画に見えてしまう。先ほど御意見もありましたけれど、北九州にはやっぱり非常に厳しい家庭だったり、厳しい状態の方たちが多くて、そこを踏まえているのかなと、あまり見えてこないなど。文字としてはいろいろと書いているんですが、福祉の観点でいうと、もろもろ後でまた申し上げたいんですが、北九州は非常に高齢化が進んでいるので、例えば認知症の方は現在でも4万2,000人いるわけですね。そこに対することというのはほとんど触れられていませんし、あと、ひきこもりだったり、教育の部分も、これからもっとよくなる部分は非常にありますが、よくなるまでにまだまだ時間のかかる、支援が必要なところがあまり盛り込まれていないというのが全体としての感想であります。

具体的にまたお尋ねしていきたいと思えます。

まず、ビジョンの目指す都市像ということで、大スローガン、つながりと情熱と技術で一步先の価値観を実現するグローバル挑戦都市・北九州市。先ほどからもたくさん御意見が出ていますけれど、この一步先の価値観というのが非常に分かりづらい。もちろん後で書いてはいるんですけど、価値観というのはそれぞれ違って、今は多様性を認める時代であるわけですから、価値観を押しつけるような形というのはいかがなものかなと。やっぱり一般の方が見るとそういうふうにはしか見えないと思えます。

例えば、これはべたですけど、物流を意識するのであれば、人と物が交流するグローバル挑戦都市・北九州市みたいな、もっと分かりやすい言葉で書くほうが私はいいのではないかなと。今のは本当に単純なんですけれど、目指すべき都市像が思い浮かぶということが実は大事なんじゃないかと。以前の元気発進！北九州プランは、人と文化を育み、世界につながる環境と技術のまちということで、人と文化を大切に、本市の強みである環境と技術を生かしていくということで、やっぱりそういった強調が必要で、市民もそうだなって分かるのではないかなと思えます。

特に、本市のレガシーでもありシビックプライドでもある環境政策、脱炭素社会の実現とかSDGsの実現を目指すことは、公害克服をしてきた我が町の市民のプライドでありまして、その先進性を維持していくべきではないか。しかし、新ビジョンでは、環境政策は稼げる町の一つの項目、グリーンインパクトとして示されているにすぎません。つまり、

成長のツールでしかないということです。また、SDGsに至っては、社会的潮流の一つとして示されているにすぎません。私たち市民が暮らす町の目指すべき姿としての脱炭素、SDGsとして捉えられていませんが、これは果たして適切なのでしょうか。

それから、大都市にもかかわらず森や海や豊かな自然環境を保っている本市の特徴には全く触れられていません。自然環境の保全や生物多様性の計画の推進という重要な観点について触れられていないのはなぜなのでしょう。

また、基本構想の記述では、北九州市の歩みと個性として、5市合併、ものづくりの町、公害の克服、環境産業の推進、環境先進都市からSDGs未来都市へ、安全な町へなどとして、これまでの本市の取組を正しく記述しているにもかかわらず、これに対応する環境政策は主要項目として示されてはいません。歴史から断ち切られてしまっているのではないかと思います。

また、本市の経済の衰退要因についても、陸路から空路にシフトする時代に対応できず、企業の流出が相次ぎますとしていることは、本当に正しいのでしょうか。本市経済の衰退については、産業構造の転換についての考察が不足していると言わざるを得ません。この点について、見解をぜひ求めたいと思います。

それから、3つの重要戦略については、7ページの記載は相変わらず本市の市内総生産や雇用者報酬の低迷を挙げて、財政状況をあげつらって、市民1人当たりの市債残高の高さを記述した上に、このように今北九州市は町全体が活力や元気を失っている状況ですと位置づけている。これは適切なのでしょうか。ここ数年、特に暴力団の追放運動が劇的な成果を上げて以来、北九州市民は、かつての鉄冷えと言われた時代に比べてはるかに町の姿が明るくなり、子育て日本一と言われるような暮らしやすい町をつくろうと希望を持ち始めていたのではないのでしょうか。この記述のように、町が疲弊し、暗く活力を失っていると感じているのでしょうか。暴力追放運動によって劇的に治安が回復し、安全な町になってきて、子育て日本一で、シニアにも暮らしやすい町、公害を克服した環境先進都市として、誇りを持って町を自慢できるなど、よいイメージを少しずつ持ってきたのではないかと思います。

北九州空港滑走路の延伸工事の決定や、都市イメージの好転による企業誘致の活発化が進み始め、先人たちのこうした果敢な取組によって、ようやく次に飛躍する条件が整ってきたのであって、これを生かして、いよいよこれから飛躍の年を迎えようとしているという今の立ち位置をどのように理解していらっしゃるのでしょうか。その意味では、町全体が活力や元気を失っている状況であるという現状認識は、ようやく飛躍の条件が整った、それを生かすときが来たと言うべきではないかと思います。

その上で、稼げる町が重点戦略のイの一番に来ていることに違和感を持ちます。先ほどからも御意見がたくさんありましたけれど、稼げる町という言葉自体は政府も使っていま

すし、取り立ててそんなに珍しい言葉ではないと思います。ただ、市長は、まず稼げる町の実現、経済力で収入を増やすと再三強調していますけれど、地方自治法によれば、第1条の2、地方公共団体は、住民の福祉の増進を図ることを基本として、地域における行政を自主的かつ総合的に実施する役割を広く担うものとするとして規定しています。稼ぐことを自己目的化してはならないということで、まず住民生活の安定、福祉の増進があって、それに資するために経済活性化策があることをしっかりと心に刻んでおくべきだと思います。

もちろん市内経済の活性化というのは重要な課題ではありますが、そもそも市役所が地域経済の振興に果たすことができることというのはそんなにたくさんあるわけではなくて、やっぱり企業による地域経済の行動、そして、日本全体の経済環境に想定されることは、エネルギー政策の転換によって本市基幹産業の空洞化という大波に翻弄されて、企業や期間労働者の激しい転出が続いて、これは谷市長時代も末吉市長時代も含めて長く本市経済が低迷してきたことを見ても理解ができるのではないかなと思います。しっかりと時代に即した企業誘致が、市役所ができる最も単純で可能な取組ではないかということがあります。

先ほどから申し上げているように、元気を失ったのは人口減少が原因だったから、人口が増加するまではもう元気が出ないと思ってしまうのではないのでしょうか。そう読み取られてしまいます。

あと、基本計画については、稼げる町の実現で、グリーンインパクトとして、先ほども少し申し上げましたが、産業政策の一項目として脱炭素とか環境施策が位置づけられているということは正しいのでしょうか。稼げる町の実現というと、一生懸命働けと言われていたようで、働けない人は、稼げない人はどうなるのか、そんなふうにも思ってしまう。多様な価値観があって、私も自分が経営していたときに感じたんですけど、今の若い子たちの価値観というのは、ただただお金をたくさん稼ぐよりも、自分の余暇とかそういったものを大事にして、そこそこ稼いで、そこそこゆっくりしたいみたいな、安定を物すごく求める若い子たちも非常に多いと思います。そういったことも含めて、稼げる町ということがあまり表に出てしまうと、その価値観が表にばんと出過ぎてしまって、じゃあそれ以外の価値観は認められない、みんな稼げみたいなイメージが出てしまうのではないかと思ったりいたします。

それから、彩りある町の実現で、彩りある人を育むということで、外国語、国際理解教育、私も質問を今回させていただいて、今いる子たちがいろんな可能性、いろんな教育を受けられるような、そんな教育の在り方も大事だとは思いますが、私はやっぱり、いろんなお子さんがいる中で、そこまでまだ行き着かない、不登校でとても苦しんでいる子など様々なお子さんがいらっしゃいます。そういった支援というのが、この計画からはあま

り見えてこないんですね。総体的に言葉としては入っているけど、具体性が何も見えてこないなので、非常にもったいないなと思います。誰もが教育を受ける権利を確保して、生きる力を育む教育を基本としていくべきだと思いますが、その点についてどう考えておられるでしょうか。

また、人口増に向けた道筋のところ、グラフとかイメージが書いてあって、これを見ると笑ってしまうんですけど、80万7,022人のところから、その後、黒いぽつぽつが結果的に下がっているんですよ。だから、これ以上は上がらないということを実際に認められたということなんでしょうか。80万7,022人を少しでも上回っていくとしているんですけど、そこと100万都市復活に向けた道筋をつくるとしていることに、とてもギャップがあって、違和感があります。そこはどちらかにしっかりまとめていただきたいと思っているんですが、100万都市復活をうたって市長が来られたのに、人口が大きく減少することを、この文章では認めたということになってしまうのではないかなと思います。100万人復活どころか、逆にどんどん遠ざかっていくことを示しているようになっていますので、この点はどのように考えておられるのでしょうか。

それから、今回主要な成果指標を出していただいています、市内総生産額については10年後までに4兆円ということが非常に不思議な気がしてならないんですね。これまでも4兆円を超えられなかった、4兆円が難しいというようなことは述べられておられますけれど、でも北橋市政のときも4兆円が目標だったということもあって、特に今回の本会議ではストレッチゴールっておっしゃったんですよ。この目標値と書いてあるところがストレッチゴールなんでしょうか。それとも、これは現実的な数字で、ストレッチゴールという、もっと上の数値が出てくるんでしょうか。そこが正直よく分かりません。10年間で年間1%という低い目標を設定しているのが、これまでを否定してきたことも含めて、不思議でならないと思っています。

それから、今までとは条件が全然違います。治安の回復がなされて、これからようやく企業誘致もどんどん進んでいこうという状況の中で、この目標というのは極めて消極的な目標ではないかと思っていますので、やっぱり上方修正をするべきではないかなと思います。

それから、社会動態の目標値もプラス1,000人ということですが、2040年じゃなくて、これは5年後の目標と理解してよろしいですか。それにしても、1,000人というのはストレッチゴールなんですか。これじゃあもう人口が増えませんかよって言っているのと同じなんですよね。だから、整合性がないと正直非常に気になっております。100万都市復活と言っているのであれば、100万都市復活の道筋をしっかりと書き込んでいただいて、減っていくことを前提に書いてある、この計画はおかしいのではないかなと思います。

今回、策定に当たってスピード感というのはある程度求められると思いますけれど、前

回、計画の修正をしたときでも、1年ぐらいかけて、しっかりと議会とも議論をしながらつくっていったんですね。今回、これだけいろんな意見が出ていて、なおかつ、委員会は1月20何日かにもありますよね。その委員会で、今日のことを踏まえ、もしくは市民の意見をしっかりとそこに反映して、もう一回出してきて、議員の意見がそこに反映されるかどうか知りませんが、その次は成案のような形で議案で上がってくるというのは、あまりにもいかなものかと正直思っています。

私ども委員会の議員は、ある程度こうやって意見を言えますし、私も会派の仲間の声を聞きながら、ここで話をさせていただいていますけれど、ただ、ここになくて、いろんな思いをしている議員は、意見を述べる場もない状況の中で、あっという間に決まってしまう。これから2040年までの北九州の大きな柱である構想、計画をつくっていくということ自体、私は非常に厳しいと思っておりますが、その点も含めて見解を求めたいと思います。たくさんあってすみませんが、よろしくお願いします。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 三宅委員から幾つか御質問いただきましたので、順次お答えさせていただきます。

最初に、これまでの北九州市の環境とかSDGsとかそういった取組の書き込みが弱いのではないかと御指摘がございました。

今回、新たなビジョンを策定するに当たりまして、当初から我々が考えていたのが、今までの基本構想や基本計画はどうしても市政全般に網羅的で、言葉は悪いですが、網羅的というか、全てを押さえたような体系的なつくり方にしていたことが多かったんですけども、今回は今後取り組んでいく重点的な取組をはっきりと示すような形でつくってきたいということで、これまで取り組んできたところがございます。ただ、副委員長がおっしゃられますように、これまでの環境分野とかSDGsの取組とかはまさに北九州市のアイデンティティーといったところにもなりますので、基本構想、基本計画に盛り込めるところがあるかどうか、また環境局とか関係部署と協議しながら整理させていただきたいと思っております。

それと、基本構想の最初に書いております北九州市のこれまでの過去を振り返っての経済状況とかの考察がどうなのかということでございました。具体的には、基本構想の5ページに少し書いているんですけども、これにつきましては、これまで北九州市が対外的に評されてきたことを少しコンパクトにまとめて書いたところがございます。ただ、今回、検討会議の事前意見交換の中でも、委員からこの認識は少し違うんじゃないかという御意見もございましたので、最終案に向けて必要なところがあればまた整理していきたいと思っております。

それと、基本構想で、北九州市の経済状況が厳しいと書いているところがございますけ

ども、こういったものだけではなくて、市民が希望を持てるような表現も書き込んだほうが良いという御指摘だと思っております。これまでも何度も言ってきておりますけども、データ等を見ましても、今回の新ビジョンは、まずは経済成長が最重要課題と掲げていくということで、データ等で見えてきた数字を書いているところがございますけども、ビジョンを市民の皆様と共有するに当たっては、北九州市民の皆さんが今後、北九州市に対する希望を持って、いろいろ明るいところも踏まえて考えていくという御指摘も踏まえまして、また必要な書き込みができるかどうか検討してまいりたいと思っております。

それと、稼げる町のところを少し強調し過ぎて、住民の福祉の増進ということが弱いんじゃないかという御指摘がございました。ここにつきましては、我々としては、この3つの重点戦略を回すことによる成長と幸福の好循環で、市民の皆さん誰もが暮らしに安心と安らぎを感じられるまちづくりというのが最も大切であると考えております。そういったことを、安らぐ町の実現のところに書いているつもりではありますけども、ほかの委員からも御指摘がありましたように、福祉とかをもう少し具体的に書いたほうが良いという御意見だと思っておりますので、そういったところもまた関係部署と整理しながら考えてまいりたいと思っております。

それと、最初の話とも連動しますが、環境政策が稼げる町のところだけでいいのかという御指摘がございました。これまでの環境分野の取組は環境学習とか市民の皆様それぞれの取組とか、それぞれの切り口で北九州市で先進的に取り組んできたところもございまして、こうしたところも踏まえながら、ほかのところでも書き込みができるかどうか整理してまいりたいと思っております。

それと、これも稼げる町のところが強調され過ぎて、なかなか働けない方とか稼げない方たちが置いてけぼりで、多様性といったところはどうなのかという御指摘もございました。いろんな条件の中で、働くことができないといった方たちが市民の中にいらっしゃるということは当然我々も認識しております。そういった方たちのセーフティーネットとしまして、安らぐ町のところで、保健・医療・福祉サービスといったところの書き込みをやってございますけども、こちらにつきましても、もう少し具体的にを見せていけるかどうかはまた関係部署と協議していきたいと思っております。

あと、彩りある町の実現で、新たな教育環境とかの書き込みが目立つけども、そもそものベースとなる教育環境の充実といったところが弱いんじゃないかという御指摘もございました。当然のことながら、公立の小・中学校を含めた教育環境、教育委員会を中心に整備していかないとイケないということは今後の取組でございまして、そこにつきましても、主要政策の中でももう少し書き込めるところがあるか、また検討してまいりたいと思っております。

それと、人口増に向けた道筋のイメージ図のところの御指摘がございました。これは文

章だけではなくてイメージ図をつけたほうが分かりやすいんじゃないかということで描かせていただいたところです。先ほども御説明させていただいたんですけど、2020年が93万9,029人で2040年が80万7,022人のこの点線のグラフというのが、今現在出ております推計人口のグラフの数字になっております。途中途中に、例えば2025年とか2030年というところは薄い黒ポツになっているんですけども、この薄い黒ポツの数字は5年ごとに出てくる推計人口で、直近5年間のトレンドによって変わってきます。ですから、2040年、今の推計としましては80万7,022人になっているんですけども、令和2年の国勢調査の結果によって、また推計人口が年内に出てくると思います。5年後の国勢調査の結果でこの数字はまたどんどん上書きされて変わってきます。直近5年間のトレンドに基づいて、北九州市の人口減少が少し緩やかになってくれば、それを反映したところで推計人口は変わってきます。そこが薄い黒ポツで書いているところのイメージでございます。矢印に向けて少し太い黒ポツを書いているのが、これが実際の人口を推計人口が上回るという、今回成果指標で掲げたイメージでございます。ですから、推計人口が5年ごとにブラッシュアップされていき、そこをまた常に実際の人口が上回っていくということを目指していきながら、まずは今の減少傾向の角度を少し緩やかにし、なおかつ、まずはフラットにして、そして、増加に向けた道筋をつくっていきながら、100万都市復活に向けた道筋を、長期的にはなると思いますけども、我々としては進めていきたいということイメージ図で描かせていただいているところでございます。

あと、主要な成果の中で、10年後の4兆円のところの御指摘がございました。市長が答弁の中でストレッチゴールと言っていたのは、この4兆円も含めたところの今回掲げた目標値でございます。先ほどの合計特殊出生率とか女性の就業率とかはかなりハードルが高い数値目標でございますし、あと、4兆円につきましても、元気発進！北九州プランでも4兆円という数字は掲げられておりました。ただ、3兆8,000億円を上限に、ここ10年近くずっと推移しており、直近の数字でいきますと3兆6,696億円で、これは市長も言っておりますけども、あくまで10年以内に4兆円を目指していくということで進めております。今後も産業経済局とかと様々な取組を進めていく中で、この4兆円というのはなるべく早く達成した上で、また新たな目標数値を掲げていきたいと考えております。

それと、プラス1,000人のところは、5年後の数字にはなりますけども、半世紀以上、社会動態はずっとマイナスが続いてきて、ようやくマイナス幅が一番低い数字ということで、昨年がマイナス48人と、ようやくここまで来たところでございます。そこからさらにプラス1,000人という考え方としましては、日本人の20代、30代をターゲットに社会動態を増やしていくということを我々は考えておりますので、ここにつきましても5年後の目標数値を掲げさせていただいたところではありますけども、なるべく早くの達成を目指して様々な取組を頑張っていきたいと思っております。

最後に、スピード感を持ってということろで、議会への説明をきちんと行いながらという御指摘がございました。今回の新たなビジョンの策定につきましては、目まぐるしい社会環境の変化の中で、武内市政が目指すビジョンを早めに市民の皆様に共有するというところで、スピード感を持って策定に向けて取り組んでいるところでございます。それで、今日、素案に対する様々な御意見を承りましたので、これにつきましては最終案に向けて検討させていただきたいと思っております。その反映を踏まえながら、また、パブリックコメントを今月いっぱいやることになっておりますので、そこで出された市民の皆様の御意見とかも踏まえながら最終案の策定に向けて取り組んでまいりたいと思っております。最終案に向けた総務財政委員会での御報告の進め方とか、そういったところはまた佐藤委員長、三宅副委員長とも御相談させていただきながら進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。長くなりましたけど、以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 三宅委員。

○委員（三宅まゆみ君） あえて網羅的に申し上げましたので、お答えも少し欠けているところもあるなど思っています。一步先の価値観のところは今触れられていないのではないかなと思いますけれど、価値観というのは様々あってというお話について、もう少しおっしゃっていただきたいと思えます。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 すみません、御答弁が漏れておりました。

一步先の価値観につきましては、今までの御答弁でも申し上げましたとおり、市民の皆様お一人お一人が持っていただく価値観ということで、必ずしも行政が押しつけたりといったものではないと思っておりますので、一步先の価値観の表記につきましては、誤解のないように整理してまいりたいと思っております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 三宅委員。

○委員（三宅まゆみ君） 書き方が本当にどうなのかなと思えます。もう少し分かりやすくすべきではないかと思えますのと、主な3つの部分で、稼ぐが本当に一番に来ていいのかと非常に考えます。

それと、ポエムは、逆に迷ってしまう気もするんですね。これを読むと、ふわっとして、このポエムは必要なのかなって思ってしまう。愛さずにはいられないというのはどなたかの御意見でも出ていたんですよ。くすぐったいって書いてあったかな、何て書いてあったかな、何かそんなニュアンスでおっしゃっていた委員の方もいらっしゃいましたけど、私も何かくすぐったいというか、これが必要なかなと正直思っていますので、そのことは併せて申し上げたいと思えます。

あともう一つ、主な成果指標で、先ほどから議論のあるところなんですけど、女性の就業率というのは、私はこの就業の在り方も1つ大事なかなと。正規雇用であったり、所得。

女性の所得がこれまでずっと低いんですよ。ですから、その所得が上がるのが実は大事で、あと結局、扶養控除の壁があるから女性はあえてそれ以上働いていないというのも非常に大きいです。これは国の問題もありますけれど、ここの整合性も取っていかねばならないと思いますし、いずれにしても、今、全般的に女性の所得が低いという現状があります。同じ仕事をしていても女性のほうが低かったりということは、公務員の皆様は基本は一緒なんですけれど、一般的な民間企業だとかなり差異がありますので、そこをどれだけ上げていけるかという目標をぜひ出していただきたいのと、男性も含めて、以前に大久保議員が委員会か何かで質問したときに、子供の数が増えないのはなぜかという所得が低いからだというようなことを答弁で答えられたという経緯があったようなのですが、もしそうであるのであれば、所得が上がっていかないと、子供の数はこれからも増えにくいというのが現状です。例えば子供の教育費がどんどん無償化になっていったりとか、そういうことをすればまた少し違ってくると思いますけれど、そういった意味でも所得の部分はぜひ目標を挙げていただきたい。

それから、4兆円がストレッチゴールというのは非常に違和感があります。今回も大きな企業誘致を一步手前で逃してしまったということでもありますけれど、そういうものが来ればがんて行くわけですよ。そこをじゃあ目指さないんですかっていうことになってしまわないかなって。明らかに4兆円だけをぱんと書いてあると、大きなものは目指さずに小ぢんまりと行くのですかという感じになるかなと思いますので、その点も併せてお願いしたいということと、あと、ここの成果指標についてはまだもう少し具体的な検討も必要なのではないかなと思いますので、その点について見解があればお聞かせをいただきたいと思います。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 女性の就業率のお話の中で、所得の観点的大事ということですが、これまでの御答弁でもお答えしましたとおり、所得が成果指標の中で重要な観点であると我々も認識しております。ここにつきましては成果指標として掲げられないか、産業経済局とも協議してまいりたいと思っております。

それと、4兆円のストレッチゴールのところでございますけども、先ほどから申しておりますように、10年以内でまずはこの4兆円を達成すると市長も言っておりますので、ここにつきましてもなるべく早く達成を。本会議での産業経済局長の答弁の中でも、4兆円に向かって具体的にどういった取組を進めていくかは、今検討しております成長戦略の中でまたお示ししていきたいと御答弁もされておりましたので、まずは4兆円に向けての具体的な取組をお見せしていきながら、達成した暁にはまた新たな高いゴールを掲げていくことになるのではないかと考えております。

○委員長（佐藤栄作君） 三宅委員。

○委員（三宅まゆみ君） あともう一つ、これはもう要望にさせていただきますけれど、国際化が進んで、外国人労働者とか、もしくは外国人が入ってくることによって、本市の治安という問題も。もちろん外国人の方皆さんがそういう課題があるとは思いませんけれど、福岡でも結構治安に課題がある場所なんかも出てきているようです。ですから、国際化に向けて、そういう方面もやっぱり考えておく必要があると思いますので、国際化の光と影という言い方はもしかしたら難しいのかもしれませんが、そういったことも踏まえて国際化を進めていただきたいと思います。

○委員長（佐藤栄作君） 企画課長。

○企画課長 国際化につきましては、安らぐ町の実現のところで多文化共生の理解促進等も掲げておりますけども、そのほかにも、稼げる町のところで、多様な人材が働くことができる環境の整備ということで、外国人材の方が北九州市で技術を向上させることによってさらなる活躍や定着につながるよう支援していくと掲げております。

検討会議の中でも、外国人の方が日本語を習得したりといった環境整備も必要ではあるけども、やはり受入れ側の日本人の皆様も、外国人の受入れに当たって外国語を勉強したりとか外国の文化を学んだりとか、受入れ側の意識も大切であるという御意見がございました。そういったところを進めていながら、他都市等でいろいろニュース等になっております、外国人の方が増えることによる治安の心配事とかそういったところがないように、ビジョンの中でも進めてまいりたいと思っております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 三宅委員。

○委員（三宅まゆみ君） 本当はまだまだたくさん会派の中で御意見が出てきて、はしょって今日はあえて申し上げさせていただいたような状況です。多くの議員が、まだいろんな個別の、ここについてはどう思うかというようなこともありますので、そういったことには真摯に耳を傾けていただいて。また、個別に出させていただくかと思えます。これは非常に大事な構想、大事な計画でありますから、この委員会以外の議員の皆さんの声も受け止めていただいて最終的にまとめていただきたいと思いますと強く要望して、終わります。

○委員長（佐藤栄作君） すみません、最後、僕だけなんですけれども、3時になりましたので、もしお手洗いとかに行かれない方がいたら。ぜひ執行部の方も行っていただいて結構なんですけれども、続行してもよろしいですか。いいですか。

ではここで、副委員長と交代します。

（委員長と副委員長が交代）

○副委員長（三宅まゆみ君） 佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君） まず、この新ビジョン、構想と計画を読んだ上での感想なんですけれども、先ほどからいろいろ言われていますが、稼げる町というところもいいんですが、やっぱりそれが強調され過ぎていて、福祉とか教育というところが少し薄いのかなという

印象を持ちます。そのため、全体的に、人に優しいというか、人への優しさというところのイメージが若干弱いのかなというような感想を持ちました。

その上で質問していきたいんですけど、私は、これからの北九州が目指す都市像として、人口減少社会の中でも持続可能な町をつくっていくという視点が重要なのかなと思うんですが、この視点がこの構想や計画にどのように反映されているのかというところを教えてください。

○副委員長（三宅まゆみ君） 企画課長。

○企画課長 基本構想の考え方の中でも、少子・高齢化、人口減少が進む中でも北九州市が持続可能で発展していくということは重要な視点として踏まえておりますので、書き込んだつもりではありますが、そういった考えではございます。以上でございます。

○副委員長（三宅まゆみ君） 佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君） 分かりました。

一方で、この構想や計画は、武内市長が100万人復活を目指すということを公約で掲げられたため、人口を増やしていくことを町として目指すということになっていると思うんですけれども、そうであればやっぱりもう少し具体的に、いつまでにどのくらいの人口を増やしていくということをもう少し具体的に目標値として定めていく必要があるのかなと思っています。

それから、じゃあ人口が増加した際に、施設の数だったり、例えば住民サービスのボリュームとかそういったところをどうしていくのかという計画を立てておかないと、例えば福岡市みたいに経済が成長して、稼げる町になって、人口が増加して、でも一方で、教育とか子育てというところで、教員が不足しました、保育施設が足りませんとか、そういう人口が増えることによって生じたひずみで、今、暮らしの中でいろんな問題が起きています。人口を増やしていくということであれば、そういった施設だったりサービスだったり今後どういうふうに見ていくのかということも計画的に考えていかなきゃいけないと思うんですけども、その辺はいかがでしょうか。

○副委員長（三宅まゆみ君） 企画課長。

○企画課長 まず、人口の将来的な目標数値を掲げるべきではないかという御指摘がございました。先ほどから御説明させていただいておりますけれども、人口につきましては、都市の総合力を上げていく、その結果によって人口が結びついていくと考えております。あと、人口減少が進んでいく要因としましては、死亡者数の増が大きな要因になっております。ここの自然動態の改善というのは今後も取り組んでいくところではありますが、この改善については少し長期的な視点での取組等が必要になってくるということでございます。2040年は新たなビジョンの計画期間ではございますけれども、この17年の間にこういった数字を掲げられるかというのは正直なかなか難しいところではございますけれども、我々と

しましては、成果指標で掲げた人口の指標の達成に重点的に取り組んでいきながら、まずは今の人口減少のカーブをいかに緩やかにしていくか、そして、人口減少というトレンドから増加にいかに転換していくかというところに注力して進めてまいりたいと思っております。人口減少のトレンドが増加に変わったところで、今後こういった形で100万人の道筋が具体的に示されるかは、そのタイミングにおいてまた検討されていくものではないかと考えております。

それと、今後の人口の将来の数によって、施設の数とか教育サービスとかそういったところが影響を受けるのではないかという御指摘がございました。今、我々として数字として出せるのは、国が出しております推計人口の数であります。これまでの公共施設マネジメントについては国の推計人口に基づいて今まで検討されてきたところであると思っておりますけれども、我々としてしましては、この推計人口をいかに上回っていくかというところを今回のビジョンでは掲げているところがございますので、5年ごとに出てくる数字によって、また施設の数とかサービスとかについては随時関係局と一緒に整理していくような感じになるのかなと考えております。以上でございます。

○副委員長（三宅まゆみ君） 佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君） 人口が減っていく局面だと、公共施設マネジメントを計画的にやるんだと思うんですけど、じゃあ人口を増やしていくということになったときに、計画との整合性がきちんと立たないとちぐはぐになっちゃうんじゃないかなと思いますので、そこら辺をきちんと整理していただきたいと思います。

それから、人口100万人に向けて社会動態をプラス1,000人、合計特殊出生率1.8と、非常に野心的というか、非常にハードルが高い指標を掲げておられるわけでありましてけれども、その指標をクリアしたとしても、100万人を達成することは僕は難しいと思うわけでありまして。だからこそ、先ほど三宅副委員長が言われていましたけれども、この計画の12ページの将来推計人口を常に上回るイメージというイメージ図ですけども、このイメージ図ですら100万人にはなっていないんですよ。だから、100万人になっていないし、100万人都市復活に向けた道筋すら示されていないんですよ。

夢は語っていいですけど、その夢を形にするためにもきちんと計画的に進んでいかなきゃいけないわけで、第5章、人口増に向けた道筋となっているけど、どう見ても道筋になっていないんですよ。だったら、この第5章の人口増に向けた道筋の中で、最後に100万都市復活に向けた道筋をつくっていきますというところをもう削除していいんじゃないかなと思うんですけども、いかがでしょうか。

○副委員長（三宅まゆみ君） 企画課長。

○企画課長 これは検討会議の中でも、福祉の専門分野の構成員から、ここの部分についてはお話がございました。会議録にも書いておりますけれども、今の北九州市の人口減少の

状況を見ると、減少を増加に転換していくというのは非常に長期的な視点が必要になってくると。さらに、佐藤委員長がおっしゃられましたように、100万都市に近づけていくというのはかなりの年数がかかると我々も認識はしております。道筋と書かせていただいたところでは、まずはステップごと、市長も3月議会とか6月議会で、人口増に向けた取組について3つのステップとお話しされたことがありますけども、まずは社会動態をプラスにする、さらに人口減少をフラットにする、人口増に転換する、そして最後に第3ステップで100万都市というお話だったと思うんです。ですから、我々としては、社会動態プラス1,000人という成果指標を達成するとともに、子育てとか教育とか福祉とかそういった生活環境の向上にも取り組んでいながら、長期的な視点にはなりますけども、出生数の増加にも力を入れていき、自然動態の改善にもつなげていきたいと考えているところがございます。長いスパンで見ないといけないところにはなるとは思いますけども、ステップを踏みながら、我々としては道筋を示していけたらと考えております。以上でございます。

○副委員長（三宅まゆみ君） 佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君） 分かりました。市長も3つのステップと言われていました。1つが社会動態、2つ目が自然動態だったですか。でも、図を見ると、2040年でも当然100万人を達成できていないわけでありますから、この3つのステップの1と2のステップで一体何年かかるんだろうと純粋に思うんですけれども、その辺が全く具体的に見えてこないんですね。だから、本当に100万人復活できるのか、そのための道筋がこの基本構想、基本計画の中に示されているのかというと、僕はそのようにはこれを読んでみても全く感じないんですね。その辺ももう少ししっかりとリアリティーのあるものにしていただきたいということを要望しておきます。

それから、市長が、財政破綻寸前なんだと、財政危機にあるんだということを公約の中で訴えかけられたわけでありますけれども、この中に、財政を健全化していくんだというような強い意志とかメッセージとか具体的な取組がないように思うんですが、こういったことは今後このビジョンの中に反映されるのでしょうか。

○副委員長（三宅まゆみ君） 企画課長。

○企画課長 基本計画の第1章のところに書かせていただいておりますけれども、市政変革による基盤づくりということで、今、市政変革推進室で北九州市政変革推進プランが令和5年度中の策定に向けて検討が進められているところがございます。新ビジョンを進めるに当たっての行財政運営の基盤づくりというところは市政変革推進プランの中で示していくという整理で我々としては考えているところがございます。以上でございます。

○副委員長（三宅まゆみ君） 佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君） 分かりました。ぜひ財政健全化に向けてしっかり頑張ってくださいと思います。

それから次に、今回のこの基本構想、基本計画、いわゆる新ビジョンの会議体は北九州市新ビジョン検討会議15名となっていると思いますけれども、北橋市長の元気発進！北九州プランは、北九州市基本構想審議会25人、それから、3つの部会で構成される北九州市基本構想を考える市民会議56人など、様々な団体の代表が策定に関わりました。先ほど、各局で団体に話を聞いたと答弁されていましたが、各種団体が一緒になって基本構想、基本計画の策定に関わったほうが、より丁寧ではないかなと思います。見解をお尋ねします。

○副委員長（三宅まゆみ君） 企画課長。

○企画課長 今回の新ビジョンの策定に当たりましては、今委員長から御紹介がありましたように、委員会につきましては新ビジョン検討会議という市政運営上の会合でさせていただきます。元気発進！北九州プランのときには、委員長から御紹介があったような体制の下でされてきたというのは我々も承知しておりますけれども、今回の新ビジョンの策定に当たりましては、検討会議といったところでの各構成員からの大所高所から、専門分野からの御意見もありますけれども、市民の皆様お一人お一人の生活の目線での御意見、そういったところをフラットな意見ということで御意見を聞きながら検討させていただいたところがございます。ですから、先ほど担当課長からの御説明がありましたけれども、素案が出る前のタイミングで中間取りまとめの考え方を各団体にお示ししながら御意見を伺ったところがございます。今後、各団体の皆様には素案の御案内とかもさせていただきながら、パブリックコメント等で御意見等をいただきたいと考えております。以上でございます。

○副委員長（三宅まゆみ君） 佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君） パブコメもそうでしょうし、ミライ・トークとかいろんな形で市民の皆さんの声を聞いていくということはいいんですけれども、実際に現場で市政の政策に携わっているような団体とか従事されている方々というのはたくさんおられますから、ぜひそういう方々の意見をもう少し聞いていただきたいと要望しておきます。

それから、確認ですけれども、この新ビジョンで目指す都市像として掲げている、つながりと情熱と技術で一步先の価値観を実現するグローバル挑戦都市・北九州市についてなんですが、これは北九州市の強みや誇りを大切にしつつ、北九州市のDNAや強み、大事にしてきたことを、人のつながり、熱い情熱、技術力、この3つに凝縮しているというふうに私は理解しました。

次に、一步先の価値観については、歴代の市長が近代化や環境分野で日本を引っ張ってきた、そういった歴史があって、この歴史や強みをさらに強化、発展させて、日本に、それから世界に先駆けた価値観を体現する、そんな町にしていきたいという思いなのかなと理解しました。

そして、グローバル挑戦都市については、八幡製鐵所をはじめ名立たる企業を生んできた町であり、また、それを支える中小企業や人材を多く輩出してきた、そういう輝かしい歴史があって、環境分野でも世界をけん引してきた北九州でありますので、そのスタンスはこれからも守りながら引き継いでいこうとしている、そういう思いなんだなと理解しているんですが、このような理解でよろしいでしょうか。企画課長。

○副委員長（三宅まゆみ君） 企画課長。

○企画課長 まさに委員長が今言われたとおり、我々としてもそういった認識で考えております。以上でございます。

○副委員長（三宅まゆみ君） 佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君） じゃあ、私の理解で間違いがないのであれば、結局は、歴代の市長、吉田さんだったり谷さんだったり末吉さん、そして北橋さんが築いてきたことを継承して、そして、それをさらに発展させていこうというふうに見えるわけなんですけれども、それはどうですか。

○副委員長（三宅まゆみ君） 企画課長。

○企画課長 市長は新ビジョンの検討に当たりましては、これまでの北九州市の歴史とか強みといったものを当然踏襲していきながら新たな展開でやっていくと、基本的には考えていらっしゃいます。以上でございます。

○副委員長（三宅まゆみ君） 佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君） 分かりました。そういう過去の歴史をきちんと尊敬して引き継いでいくということは大事なことでありますけれども、でもそうだとすると、これまでとあまり変わらないというイメージ、印象を受けるんですよね。前市政を、武内市長は、失われた16年と否定をしてきたわけでありますから、もっと武内カラーが打ち出されていくのかなと思ったんですけれども、今の答弁を聞いても、これまでの市政を肯定しながら引き継いでいきたいんだなという印象を持ちました。

次に、都市像の実現に向けた3つの重点戦略として掲げた稼げる町、彩りある町、安らぐ町については、稼げる町を起点として、安らぐ町、そして彩りある町にしていくと、そういう好循環をつくっていくということだと思うんですけれども、基本構想に示されている歯車のイメージ図があるんですが、このイメージ図にちょっと違和感があつて。あくまでもイメージ図なんだろうけれども、今日のいろんな議論を聞いていく中で、この図のように逆三角形の形では、歯車が全て同じ方向に回転していかないんじゃないかなと思います。仮に、稼げる町の歯車が右回り、時計回りに回転すると、彩りある町の歯車は反対側、左側に回転していくんじゃないかな。結局、その3つの歯車がうまくかみ合わずに、回転せずにストップしてしまうと、そんなイメージを僕は持ってしまふんですね。

今議会で市長が、スピード感を持って策定をしていくという旨の答弁をされていますけ

れども、やはり私はもう少し時間をかけて、議会との十分な議論を経てからでも遅くないんじゃないかなと思っています。まず議会との歯車も今かみ合っていない中で性急に事を進めていくと、そのイメージ図のように歯車がストップしてしまう、市政が停滞してしまうんじゃないかなと感じています。

なので、そこでお尋ねしたいんですけれども、もう少し時間をかけて議論をして策定していくということは考えられないのか、お尋ねします。

○副委員長（三宅まゆみ君） 企画課長。

○企画課長 我々としましては、令和6年度から新たな新ビジョンの下での市政運営を目指して、成長戦略の計画とか、市政変革の計画も同時並行で今進めているところでございますので、我々としましては、引き続き、議会の皆様との情報交換とか意見交換を綿密にしていきながら、当初の予定のスケジュールに向けて頑張っていきたいと思っております。以上でございます。

○副委員長（三宅まゆみ君） 佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君） 分かりました。であるなら、今後、この素案を広く市民の方々にもっと丁寧に説明する必要があると思います。今月の16日と17日に2回説明会を開くということですが、こうした説明会というのはこれで最後になるんですか。

○副委員長（三宅まゆみ君） 企画担当課長。

○企画担当課長 今月12月16日、17日にミライ・トーク in 北九州を開いて、こちらで今回の新ビジョンの素案について市長から説明をいただいて、市民の皆様に分かりやすく素案について触れていただきたいと思いますと考えております。あと、12月の1か月間でパブリックコメントをさせていただきまして、そこで市民の皆様から御意見をいただいて、素案の参考にさせていただき、1月の最終案の作成に向けて進めていきたいと考えております。以上でございます。

○副委員長（三宅まゆみ君） 佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君） 先ほども、実際に市政の政策に携わっている団体、従事者の方々の声をもう少しきちんと聞いていくべきだという要望もさせていただきましたので、ぜひこの2回だけじゃなくて、もっと市長の思っていることが広く市民の皆さんに伝わっていくように、もう少し分かりやすい資料を使って、ぜひそうした声を聞いていっていただきたいと要望して終わります。

○副委員長（三宅まゆみ君） 企画担当課長。

○企画担当課長 今回の素案につきましては、実際に当日に会場にお越しいただく以外に、ライブ配信、アーカイブ配信を行うように予定しております。また、素案につきましては、概要版を今、区役所、出張所、本庁舎でもお配りしておりますが、今回、12月15日の市政だよりも挟み込みをさせていただきまして、広く市民の皆様にも素案につきまして発信し

てまいりたいと考えております。以上でございます。

○副委員長（三宅まゆみ君）ここで、委員長と交代します。

（副委員長と委員長が交代）

○委員長（佐藤栄作君）関連とかないですか。戸町委員。

○委員（戸町武弘君）先ほど三宅委員の質問に対して答弁されたことを確認したいんですけども、社会動態1,000人という中で、日本人の20代、30代を中心に増やしたいという発言をしたように聞こえたんですけど、それは事実でよろしいでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）企画課長。

○企画課長 まず、1,000人の考え方の御説明させていただいたんですけども、今マイナス幅が大きい20代、30代の日本人のマイナス幅を半分にするということをまずは重点的にやっていくと考えているんですけども、当然、今、外国人の方とかも増えてきていらっしゃいますので、そこは引き続き、多文化共生といった取組を進めて、受入れを進めていきながら、全体的な社会動態のプラス幅を増やしていきたいと考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）戸町委員。

○委員（戸町武弘君）ということは、この1,000人の中で日本人とか世代とかは関係ないということですね。分かりました。

○委員長（佐藤栄作君）ほかにありませんか。

ほかになければ、本日は以上で閉会します。

総務財政委員会	委員長	佐藤栄作	印
	副委員長	三宅まゆみ	印